

システム名	MSP
ソフトウェア 略称	DFPRO21
適用 バージョン・レベル	V21L30
製品コード	A93166E1-2130-1

# ソフトウェア説明書

OSIV/MSP

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21



## ま え が き

本ソフトウェア説明書は、

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

本ソフトウェアのインストールを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお取り寄せのうえ、インストールを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次のとおりです。

◆参照 → 本書の中の参照箇所を示しています。

◆【】 “適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。

例：◆【1】 1.2 …… “適用マニュアル”第1項のマニュアルの1.2 を参照。

2018年 4月

富士通株式会社

Windows は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 1988-2018

目 次

1. 機能概要 .....	1
2. 構成プログラム .....	2
3. 適用マニュアル .....	2
4. 新機能 .....	3
5. 制限事項 .....	4
6. 移行上の注意 .....	5
7. ソフトウェア組合せ条件 .....	5
8. 入出力装置 .....	5
9. 提供媒体形式と内容 .....	6
10. D A S D所要量 .....	7
11. インストレーションの手引 .....	8
12. 稼働確認 .....	2 5
13. 日本語名標辞書データ変換プログラム .....	3 7
14. 日本語名標辞書 $\longleftrightarrow$ 項目ディクショナリ変換プログラム .....	4 1
15. 適用マニュアルの正誤表 .....	4 6
16. プログラム修正事項 .....	8 1

## 1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

OSIV/MSP SIMPLIA/DF-PROGRAM (SIMple development and maintenance support Program Libraries for Application system/Document Facility of cobol PROGRAM) は、COBOLソースプログラムおよびCOBOLコピー句を解析し、COBOLソースプログラムの詳細情報をドキュメントまたはCSVデータに出力するツールである。

DF-PROGRAMは以下の機能を持つ。

### 1. 1 プログラム管理表出力機能

1プログラム単位に、プログラムに記述された利用者語の情報を詳細に出力する。

### 1. 2 プログラム一覧出力機能

COBOLソースプログラムのプログラム名に、レベル、作成日付などの情報を付加して一覧表にする。

### 1. 3 プログラム構造図出力機能

COBOLソースプログラムがどのプログラムを呼出しているかのCALL関係を階層図にして出力する。

### 1. 4 プログラム情報出力機能

COBOLソースプログラムで定義されている、利用者語を次の形式で出力する。

- － 対副プログラム名
- － 対ファイル名、レコード名、コピー句名
- － 対副プログラム名、ファイル名、レコード名、コピー句名

### 1. 5 プログラム入出力情報ファイル出力機能

副プログラムまで含めた入出力情報（DD名、IO情報）を集約してファイルに出力する。

### 1. 6 メンバー一覧出力機能

処理対象のメンバ名に、COBOLソースプログラムのプログラム名、二次入口点名、レベル、作成日付などの情報を付加して一覧表にする。

### 1. 7 CSV形式ファイル出力オプション

プログラム一覧出力機能、プログラム構造図出力機能、プログラム情報出力機能、およびメンバー一覧出力機能をCSV形式に変換してファイルに出力する。

CSV形式のファイルの出力レコードおよびレコードフォーマットの詳細については、適用マニュアルを参照されたい。 ◆【1】 付C.2.2

## 2. 構成プログラム

このソフトウェアは、表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項番	分類	プログラム名	バージョン・レベル	備考
1	SIMPLIA/ DF-PROGRAM	JSMJG010	V21L30	
2		JSMJGCSV	V21L30	CSV形式ファイル出力用
3		JSMJGDCT	V21L30	日本語名標辞書変換用
4		JSMJGKN1	V21L30	日本語名標辞書↔ 項目ディクショナリ 変換用

## 3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示すとおりである。

表3.1 適用マニュアル

項番	マニュアル名称	マニュアルコード	備考
1	OSIV SIMPLIA/DF-PROGRAM 解説書	JIM0-9810-01	

## 4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョン・レベルに対して次のような機能追加および改良が行われている。

### 4. 1 V20L12で行われた機能追加・改良

#### 4. 1. 1 予約語指定オプションの追加

各機能で、プログラムの構文解釈での予約語集合の扱いを指定する以下の実行時オプションを追加した。

- V11L11 …… COBOL85(V11L11) が解析対象プログラムの場合指定
- V11L11R …… COBOL85(V11L11) が解析対象プログラムの場合指定 (RDB 使用時)
- V11L20 …… COBOL85(V11L20) が解析対象プログラムの場合指定
- V11L20R …… COBOL85(V11L20) が解析対象プログラムの場合指定 (RDB 使用時)
- V12L10 …… COBOL85(V12L10) が解析対象プログラムの場合指定
- V12L10R …… COBOL85(V12L10) が解析対象プログラムの場合指定 (RDB 使用時)
- V12L20 …… COBOL85(V12L20) が解析対象プログラムの場合指定
- V12L20R …… COBOL85(V12L20) が解析対象プログラムの場合指定 (RDB 使用時)
- V12L20R2 …… COBOL85(V12L20) が解析対象プログラムの場合指定 (RDB2使用時)

#### 4. 1. 2 IDENTIFICATION DIVISION の対応

ID DIVISION. の記述を可能とした。

#### 4. 1. 3 PROGRAM-ID の対応

PROGRAM-ID. 定数-1. の記述を可能とした。

#### 4. 1. 4 環境部記述形式追加の対応

SELECT ファイル名 ASSIGN TO ファイル識別名定数-1. の記述を可能とした。

#### 4. 1. 5 CALL命令の対応

- ADDRESS OF 特殊レジスタ の記述を可能とした。
- LENGTH OF 特殊レジスタ の記述を可能とした。

### 4. 2 V21L10で行われた機能追加・改良

#### 4. 2. 1 CSV形式ファイル出力オプションの追加

プログラム情報出力機能のドキュメントをCSV形式ファイルへ出力することを可能とした。

#### 4. 2. 2 2000年対応

解析対象メンバの最終更新日付指定において、2000年以降の日付処理を可能とした。

### 4. 3 V21L20で行われた機能追加・改良

#### 4. 3. 1 プログラム一覧のCSV形式ファイル出力機能の追加

プログラム一覧出力機能のドキュメントをCSV形式ファイルへ出力することを可能とした。

#### 4. 3. 2 プログラム構造図のCSV形式ファイル出力機能の追加

プログラム構造図出力機能のドキュメントをCSV形式ファイルへ出力することを可能とした。

#### 4. 3. 3 プログラム入出力情報ファイル出力機能の追加

副プログラムまで含めた入出力情報（DD名，IO情報）を集約しプログラム入出力情報ファイルとして出力することを可能とした。

#### 4. 3. 4 プログラム管理表のFD情報拡張

プログラム入出力情報ファイル出力機能で出力した情報をプログラム管理表のFD情報に追加出力することを可能とした。

#### 4. 3. 5 プログラム管理表のテキスト形式ファイル出力の追加

プログラム管理表出力機能のドキュメントをテキスト形式ファイルへ出力することを可能とした。

### 4. 4 V21L30で行われた機能追加・改良

#### 4. 4. 1 メンバ一覧出力機能の追加

プログラム一覧の情報にメンバ名および二次入口点名を付加したメンバー一覧のCSV形式ファイル出力を可能とした。

#### 4. 4. 2 制限抵触メッセージの出力

プログラム解析を行う上で制限抵触となった場合，軽度のエラーメッセージを出力するようにした。

最大重大度コードは軽度エラー（04）となるが，出力ドキュメント内容は改良前と変わらない。

#### 4. 4. 3 実行結果メッセージの複数行出力

PFのOUTLISTユーティリティ（オプション 3.8）において，実行結果メッセージの折れ曲がりによる文字化けをなくし，画面で確認することを可能とした。

#### 4. 4. 4 プログラム情報出力機能における出力情報なしのメッセージ出力

対象プログラムに出力情報が存在しない場合，その旨の情報メッセージを出力するようにした。

## 5. 制限事項

このソフトウェアでは，マニュアルに記載の事項のうち使用を制限しているものがある。

これらの制限事項の内容とその代行方法・解除予定を表5.1に示す。

表5.1 制限事項

項番	制 限 事 項	備考（代行方法，その他）	解除予定
1	当ソフトウェアを認定ライブラリにインストールするまたはインストールしたロードモジュールライブラリを認定ライブラリとして使用することはできない。	ジョブ制御文のJOB LIB DD又はSTEP LIB DD文に当ソフトウェアを格納しているロードモジュールライブラリを指定して，実行する。	未定
2	日本語ラインプリンタ装置が，1行当たりのデータ長（バイト）が371バイト以上の帳票が出力できないプリンタ装置では，プログラム構造図が正しく出力されない。	なし ◆参照 → 8	未定



## 6. 移行上の注意

以前のバージョン・レベルからこのソフトウェアに移るときには、以下の事項に留意しなければならない。

### 6. 1 V20L10～V20L13からの移行

- － 本V/Lと共存させる場合は、別ライブラリにインストールすること。（旧V/Lと同じロードモジュールライブラリに格納しない）
- － フォームオーバーレイについてはフォーマットが変更されているため、イメージライブラリを作成し直す必要がある。
- － 実行JCLについては、作成し直す必要はない。

### 6. 2 V21L10からの移行

- － 本V/Lと共存させる場合は、別ライブラリにインストールすること。（旧V/Lと同じロードモジュールライブラリに格納しない）
- － フォームオーバーレイおよび実行JCLについては、作成し直す必要はない。

### 6. 3 V21L20からの移行

- － 本V/Lと共存させる場合は、別ライブラリにインストールすること。（旧V/Lと同じロードモジュールライブラリに格納しない）
- － フォームオーバーレイ、実行JCL、およびプログラム入出力情報ファイルについては、作成し直す必要はない。

## 7. ソフトウェア組合せ条件

このソフトウェアを使用するときに必要な関連ソフトウェアは以下のとおりである。

表7.1 ソフトウェア組合せ条件

ソフトウェア名	適用V/L	必要条件		備考
		必須	オプション	
AF II	V10L10以降	○		
COBOL 8 5	V12L10以降	○		
ソートマージ	V10L30以降	○		
ADJUST	V11L10以降	○		
JEF基本辞書	V01L92以降	○		
GEM	V10L30以降		○	ソースライブラリまたはコピーライブラリがGEMの場合
PFD	V10L30以降		○	区分編成のソースライブラリで@DOP Tまたは@COMP OUND制御文を指定する場合

## 8. 入出力装置

本ソフトウェアの帳票は、日本語ラインプリンタ、カット紙プリンタで出力することができる。ただし、フォームオーバーレイが出力でき、1行当たりのデータ長（バイト）が371バイト以上の帳票が出力できるプリンタであること。

## 9. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される媒体の内容は、表9.1 から表9.2 に示すとおりである。

表9.1 提供媒体形式

ラベル形式	ボリューム通し番号	データセット数	巻数
SL	DFPRO	6	1

表9.2 提供媒体内容

格納 順番	データセット名	内 容
1	PROGRAM. JCL	提供 J C L ファイル（インストール用ジョブ制御文，実行用ジョブ制御文，フォームオーバーレイソース，稼働確認用テストソースプログラム，稼働確認用テストコピー句）のJSECOPY アンロード版
2	PROGRAM. LOAD	ロードモジュールのJSECOPY アンロード版
3	PROGRAM. IMLIB	イメージライブラリのJSECOPY アンロード版
4	PROGRAM. NDICT	稼働確認用日本語名標辞書のJSDGENERアンロード版
5	PROGRAM. UTYLOAD	ユーティリティ用プログラム（日本語名標辞書データ変換プログラム，日本語名標辞書↔項目ディクショナリ変換プログラム）のロードモジュールのJSECOPY アンロード版 ◆参照 → 13, 14
6	PROGRAM. UTYJCL	ユーティリティ用プログラム（日本語名標辞書データ変換プログラム，日本語名標辞書↔項目ディクショナリ変換プログラム）の提供 J C L ファイルのJSECOPY アンロード版 ◆参照 → 13, 14

10. DASD所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのDASD所要量の見積りは表10.1 に示すとおりである。

表10.1 DASD所要量

単位は各々次のとおり  
レコード長, ブロック長: バイト  
ディレクトリ: ブロック  
DASD所要量: トラック

項番	データセット名		データセット形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	ディレ クトリ	算 出 式		備 考
	標準名	変更 可否			DASD所要量		
					F 6 4 2 1	F 6 4 2 5	
1	PROGRAM. JCL	可	区分編成 FB 80 3120	4	3	2	
2	PROGRAM. LOAD	可	区分編成 U 0 6144	1 3	4 5	3 0	
3	PROGRAM. IMLIB	可	区分編成 U 0 6144	1	2	1	
4	PROGRAM. NDICT	可	順編成 FB 82 820	0	2	1	
5	PROGRAM. UTYLOAD	可	区分編成 U 0 6144	1	2	1	日本語名標辞書データ変換プログラム, および日本語名標辞書←→項目ディクショナリ変換プログラムを使用する場合 ◆参照 → 13, 14
6	PROGRAM. UTYJCL	可	区分編成 FB 80 3120	1	2	1	日本語名標辞書データ変換プログラム, および日本語名標辞書←→項目ディクショナリ変換プログラムを使用する場合 ◆参照 → 13, 14

## 11. インストレーションの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

### 11.1 インストール用ジョブ制御文のローディング

インストール用ジョブ制御文は、提供 JCL ファイルのメンバとして提供している。

#### 11.1.1 磁気テープ媒体からのローディング

磁気テープ媒体の提供 JCL をローディングするジョブ制御文の例を図11.1に示す。下線部は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=H, MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD DSN=PROGRAM. JCL, UNIT=MT, DISP=(OLD, PASS),
// VOL=SER=DFPRO, LABEL=(1, SL)
//OUT01 DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (2, 1, 4))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//
```

図11.1 磁気テープ媒体からローディングするジョブ制御文 (例)

#### 11.1.2 DVD媒体からのローディング

DVD媒体の提供 JCL をローディングするジョブ制御文の例を図11.2に示す。下線部は修正箇所である。

なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD DSN=PROGRAM. JCL, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (2, 1, 4))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//
```

図11.2 DVD媒体からローディングするジョブ制御文 (例)

#### [注意事項]

DVD媒体の内容はDASDに転送されていることが前提である。DVD媒体からDASDへの転送については、DVD適用手引書を参照されたい。

## 11.2 インストール用ジョブ制御文の修正

インストールするシステムに応じ、インストール用ジョブ制御文を修正する。

### 11.2.1 磁気テープ媒体からのインストール

磁気テープ媒体からインストールする場合のインストール用ジョブ制御文を図11.3に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'INSTALL'である。下線部は修正箇所を示す。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

また、ユーティリティ用プログラムを使用しない場合、INST03およびINST04のステップは実行しなくてよい。

◆参照 → 13, 14

ロードモジュールライブラリのインストール先は認定ライブラリであってはならない。◆参照 → 5

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01B JOB PROGRAM, CLASS=H, MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR
//*****
//*** DF-PROGRAM インストール用JCL ***
//*****
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD DSN=PROGRAM. LOAD, UNIT=MT, DISP=(OLD, PASS),
// VOL=SER=DFPRO, LABEL=(2, SL)
//IN02 DD DSN=PROGRAM. IMLIB, UNIT=MT, DISP=(OLD, PASS),
// VOL=SER=DFPRO, LABEL=(3, SL)
//OUT01 DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (30, 1, 13), RLSE)
//OUT02 DD DSN=USER01. PROGRAM. IMLIB, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (1, 1, 1), RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
COPY INDD=IN02, OUTDD=OUT02
/*
//INST02 EXEC PGM=JSDGENER, REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=PROGRAM. NDICT, UNIT=MT, DISP=(OLD, PASS),
// VOL=SER=DFPRO, LABEL=(4, SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01. PROGRAM. NDICT, UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
// DISP=(NEW, CATLG), SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//INST03 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD DSN=PROGRAM. UTLOAD, UNIT=MT, DISP=(OLD, PASS),
// VOL=SER=DFPRO, LABEL=(5, SL)
//OUT01 DD DSN=USER01. PROGRAM. UTLOAD, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (1, 1, 1), RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//INST04 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD DSN=PROGRAM. UTJCL, UNIT=MT, DISP=(OLD, PASS),
// VOL=SER=DFPRO, LABEL=(6, SL)
//OUT01 DD DSN=USER01. PROGRAM. UTJCL, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (1, 1, 1), RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//
```

図11.3 磁気テープ媒体からのインストール用ジョブ制御文

<補足説明>

- ・イメージライブラリへのインストールメンバ名は以下のとおりである。

(KOL1G010)

## 11.2.2 DVD媒体からのインストール

DVD媒体からインストールする場合のインストール用ジョブ制御文を図11.4に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'INSTALL2'である。下線部は修正箇所を示す。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

また、ユーティリティ用プログラムを使用しない場合、INST03およびINST04のステップは実行しなくてよい。 ◆参照 → 13, 14

ロードモジュールライブラリのインストール先は認定ライブラリであってはならない。 ◆参照 → 5

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01B JOB PROGRAM, CLASS=H, MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR
//*****
//*** DF-PROGRAM インストール用JCL ***
//*****
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD DSN=PROGRAM. LOAD, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//IN02 DD DSN=PROGRAM. IMLIB, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (30, 1, 13), RLSE)
//OUT02 DD DSN=USER01. PROGRAM. IMLIB, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (1, 1, 1), RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
COPY INDD=IN02, OUTDD=OUT02
/*
//INST02 EXEC PGM=JSDGENER, REGION=512K
//SYSUT1 DD DSN=PROGRAM. NDICT, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=USER01. PROGRAM. NDICT, UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
// DISP=(NEW, CATLG), SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD DUMMY
/*
//INST03 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD DSN=PROGRAM. UTLOAD, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01. PROGRAM. UTLOAD, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (1, 1, 1), RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//INST04 EXEC PGM=JSECOPY, REGION=512K
//IN01 DD DSN=PROGRAM. UTJCL, UNIT=SYSDA, DISP=OLD,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01. PROGRAM. UTJCL, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (1, 1, 1), RLSE)
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//

```

図11.4 DVD媒体からのインストール用ジョブ制御文

<補足説明>

- ・イメージライブラリへのインストールメンバ名は以下のとおりである。

(KOL1G010)

### 11.3 インストールの実行

修正したインストール用ジョブ制御文を実行する。

### 11.4 フォームオーバーレイソース

このソフトウェアでは、プログラム一覧の出力時にイメージライブラリを使用している。提供するイメージライブラリは、たて11インチ×よこ16インチ帳票用であり、デジタルスイッチの基準値を、垂直：4、水平：5で作成している。そのため、これ以外の基準値で使用すると、プログラムの印字とオーバーレイがずれて出力される。この場合は、フォームオーバーレイソースのMANNER文を修正し、イメージライブラリを再作成する。

また、利用者独自のマークを表示する場合や、フォームオーバーレイ識別名を変更する場合などにも、提供JCLファイルに入っているフォームオーバーレイソースを修正して、利用者固有のイメージライブラリを作成できる。

フォームオーバーレイの修正および登録方法の詳細は“OSIV/MSP ADJUST使用手引書 バッチ処理機能編”を参照されたい。図11.5にMANNER文の修正方法を示す。

<pre>MANNER CHAR (10, 6), MOVE (-1, 0)</pre> <p style="text-align: right;">水平←   → 垂直</p>
---

図11.5 MANNER文の修正方法

MANNER文にMOVEオペランドを追加し、水平方向および垂直方向の位置を修正する。

提供JCLファイルのフォームオーバーレイソースのメンバは以下のとおりである。

— G010 ————— プログラム一覧

## 11.5 実行用ジョブ制御文（帳票出力機能）の修正

このソフトウェアを稼働させるためのジョブ制御文の修正方法を以下に説明する。下線部分に変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。なお、下線部以外にもPARMパラメタ、SYSIN制御文およびシステムに合わせて装置名の修正も行う。

### 11.5.1 プログラム管理表出力用のジョブ制御文の修正

プログラム管理表出力用のジョブ制御文を図11.6に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'DETAIL'である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R _____ ①
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR _____ ③
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR _____
//JOBCAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR _____ ④
//*
//*** プログラム管理表出力 ***
//*
//STEP1 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K, _____ ⑤
// PARM='(DETAIL, REC, SORT), HANYO, CPY' _____ ⑥
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTPRO1' _____ ⑦
//*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑧
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑨
//JIMLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. NDICT, DISP=SHR _____ ⑩
//*AIMLIB DD DSN=AIMI. DRCTLB, DISP=SHR _____ ⑪
//JSMHG010 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100)) _____
//JSMHG020 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100)) _____ ⑫
//JSMHG030 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100)) _____
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100)) _____
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100)) _____
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100)) _____
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100)) _____
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGLST DD SYSOUT=*
//

```

図11.6 プログラム管理表出力用のジョブ制御文

- ① 実行クラス，出力クラスなどを指定する。
- ② ロードモジュールライブラリを指定する。
- ③ COBOL85ライブラリ，ADJUST（注）など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注）ADJUSTルーチンライブラリ名には，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ⑤ リージョンサイズ1024Kを指定する。ただし，実行時オプションに'REC'またはRDBに関する予約語集合の扱い（'V11L11R'，'V11L20R'，'V12L10R'，'V12L20R'，または'V12L20R2'）を指定する場合は2048Kを指定する。また，両方指定する場合は3072Kを指定する。
- ⑥ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑦ SYSIN制御文で解析対象を指定する。
- ⑧ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑨ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑩ 実行時オプションHANYOの場合，日本語名標辞書を指定する。



- ⑪ 実行時オプション 'REC' 時に、対象プログラムがサブスキーマを定義している場合、AIMディレクトリを指定する。
- ⑫ 実行時オプション 'REC' 時に、作業用データセットを指定する。

## 11.5.2 プログラム一覧出力用のジョブ制御文の修正

プログラム一覧出力用のジョブ制御文を図11.7に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'LIST' である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R                ①
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR           ②
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR                    ③
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR                ③
//JOBCAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR                          ④
//IMAGELIB DD DSN=USER01. PROGRAM. IMLIB, DISP=SHR, UNIT=SYSDA, ⑤
// VOL=SER=DASD01
//*
//*** プログラム一覧出力 ***
//*
//STEP1 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM='(LIST), HANYO, CPY'                               ⑥
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER=TEST/1                                       ⑦
//*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR           ⑧
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR           ⑨
//JIMLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. NDICT, DISP=SHR         ⑩
//JSMHG010 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGLST DD SYSOUT=*
//

```

図11.7 プログラム一覧出力用のジョブ制御文

- ① 実行クラス，出力クラスなどを指定する。
- ② ロードモジュールライブラリを指定する。
- ③ COBOL 85 ライブラリ，ADJUST（注）など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注）ADJUSTルーチンライブラリ名には，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ⑤ プログラム一覧出力機能の場合，イメージライブラリを指定する。
- ⑥ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑦ SYSIN制御文で解析対象を指定する。
- ⑧ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑨ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑩ 実行時オプションHANYOの場合，日本語名標辞書を指定する。

### 11.5.3 プログラム構造図出力用のジョブ制御文の修正

プログラム構造図出力用のジョブ制御文を図11.8に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'STRCT' である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R ----- ①
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR ----- ②
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR ----- ③
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR ----- ③
//JOBCAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR ----- ④
//*
//*** プログラム構造図出力 ***
//*
//STEP1 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM='(STRCT), HANYO, CPY' ----- ⑤
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTPRO1' ----- ⑥
@SOPT SUBMEMBER=TEST/1
//*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR ----- ⑦
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR ----- ⑧
//JIMLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. NDICT, DISP=SHR ----- ⑨
//JSMHG010 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGLST DD SYSOUT=*
//

```

図11.8 プログラム構造図出力用のジョブ制御文

- ① 実行クラス，出力クラスなどを指定する。
- ② ロードモジュールライブラリを指定する。
- ③ COBOL 85 ライブラリ，ADJUST（注）など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注）ADJUSTルーチンライブラリ名には，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ⑤ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑥ SYSIN制御文で解析対象を指定する。
- ⑦ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑧ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑨ 実行時オプションHANYOの場合，日本語名標辞書を指定する。

#### 11.5.4 プログラム情報出力用のジョブ制御文の修正

プログラム情報出力用のジョブ制御文を図11.9に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'XREF' である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R ----- ①
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR ----- ②
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR ----- ③
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR -----
//JOBCAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR ----- ④
//*
//*** プログラム情報出力 ***
//*
//STEP1 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM='(XREF, SORT), HANYO, CPY' ----- ⑤
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTPRO1' ----- ⑥
//*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR ----- ⑦
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR ----- ⑧
//JIMLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. NDICT, DISP=SHR ----- ⑨
//JSMHG010 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGLST DD SYSOUT=*
//

```

図11.9 プログラム情報出力用のジョブ制御文

- ① 実行クラス，出力クラスなどを指定する。
- ② ロードモジュールライブラリを指定する。
- ③ COBOL 85 ライブラリ，ADJUST（注）など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注）ADJUSTルーチンライブラリ名には，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ⑤ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑥ SYSIN制御文で解析対象を指定する。
- ⑦ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑧ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑨ 実行時オプションHANYOの場合，日本語名標辞書を指定する。

### 11.5.5 プログラム入出力情報ファイル出力用のジョブ制御文の修正

プログラム入出力情報ファイル出力用のジョブ制御文を図11.10に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'PIO'である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R ----- ①
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR ----- ②
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR ----- ③
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR -----
//JOBCAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR ----- ④
//*
//*** プログラム入出力情報ファイル出力 ***
//*
//STEP1 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM='(PIOF), CPY' ----- ⑤
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTPRO1' ----- ⑥
@SOPT SUBMEMBER=TEST/1
//*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR ----- ⑦
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR ----- ⑧
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGPI0 DD DSN=USER01. PIO. FILE, UNIT=SYSDA, DISP=(, CATLG), ----- ⑨
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (50, 50), RLSE),
// DCB=BLKSIZE=6000
//

```

図11.10 プログラム入出力情報ファイル出力用のジョブ制御文

- ① 実行クラス，出力クラスなどを指定する。
- ② ロードモジュールライブラリを指定する。
- ③ COBOL 85 ライブラリ，ADJUST（注）など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注）ADJUSTルーチンライブラリ名には，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ④ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ⑤ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑥ SYSIN制御文で解析対象を指定する。
- ⑦ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑧ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑨ プログラム入出力情報出力ファイルのデータセット名，ボリューム通し番号，割当て容量，DCB情報等を指定する。ブロック長は，レコード長30の整数倍を指定する。

## 11.6 実行用ジョブ制御文（CSV形式ファイル出力機能）の修正

CSV形式ファイル出力機能は、帳票出力の同機能の中間ファイルを入力とするため、2ジョブステップで実行する。当プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- － 中間ファイル作成時のドキュメントキーワードまたは情報オプションとCSV形式ファイル出力時の情報オプションが異なる場合、出力結果の保証はしない。
- － CSV形式ファイルには、日本語名標辞書による日本語変換後の情報は出力しない。

当プログラムを稼働させるためのジョブ制御文の修正方法を以下に説明する。下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。なお、下線部以外にもPARMパラメタ、SYSIN制御文およびシステムに合わせて装置名の修正も行う。

### 11.6.1 プログラム一覧CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正

プログラム一覧CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文を図11.11に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'LISTCSV'である。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR _____
//JOBCAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR _____ ③
//*
/*** プログラム一覧出力 ***
/*
//STEP01 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM='(LIST), NOHANYO, CPY' _____ ④
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER=TEST/1
/*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑤
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑥
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, UNIT=SYSDA, DISP=(, PASS),
// SPACE=(TRK, (100, 100)), DCB=BLKSIZE=11880 _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGLST DD DUMMY
//SYSOUT DD DUMMY
/*
/*** CSV形式ファイル出力 ***
/*
//CSV EXEC PGM=JSMJGCSV, REGION=1024K,
// PARM='LIST, SORT, TITLE' _____ ⑧
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑤
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, DISP=(OLD, DELETE)
//JSMHGCSV DD DSN=USER01. LIST. CSV, UNIT=SYSDA, DISP=(, CATLG), _____ ⑨
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (50, 50), RLSE),
// DCB=BLKSIZE=11604
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.11 プログラム一覧CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリ、ADJUST（注）など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし、認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注）ADJUSTルーチンライブラリ名には、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。

- ④ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする.
- ⑤ 入力元のソースライブラリを指定する.
- ⑥ 入力元のコピーライブラリを指定する.
- ⑦ 中間ファイルの割当て容量およびブロック長（レコード長110の整数倍）を指定する.
- ⑧ PARMパラメタにCSV形式ファイル出力の実行時オプションを指定する.
- ⑨ CSV形式ファイルのデータセット名，ボリューム通し番号，割当て容量，DCB情報等を指定する． ブロック長は，レコード長58+4以上を指定する.

## 11.6.2 プログラム構造図CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正

プログラム構造図CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文を図11.12に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'STRCTCSV'である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR _____ ③
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR _____ ③
//*
//*** プログラム構造図出力 ***
//*
//STEP01 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM=(STRCT), NOHANYO, CPY _____ ④
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTPRO1'
@SOPT SUBMEMBER=TEST/1
//*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑤
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑥
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, UNIT=SYSDA, DISP=(, PASS),
// SPACE=(TRK, (100, 100)), DCB=BLKSIZE=11571 _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGLST DD DUMMY
//*
//*** CSV形式ファイル出力 ***
//*
//CSV EXEC PGM=JSMJGCSV, REGION=1024K,
// PARM=STRCT, TITLE _____ ⑧
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, DISP=(OLD, DELETE)
//JSMHGCSV DD DSN=USER01. STRCT. CSV, UNIT=SYSDA, DISP=(, CATLG), _____ ⑨
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (50, 50), RLSE),
// DCB=BLKSIZE=11632
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.12 プログラム構造図CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85ライブラリ，ADJUST（注）など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注）ADJUSTルーチンライブラリ名には，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑤ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑦ 中間ファイルの割当て容量およびブロック長（レコード長609の整数倍）を指定する。
- ⑧ PARMパラメタにCSV形式ファイル出力の実行時オプションを指定する。
- ⑨ CSV形式ファイルのデータセット名，ボリューム通し番号，割当て容量，DCB情報等を指定する。ブロック長は，レコード長646+4以上を指定する。



11.6.3 プログラム情報（対副プログラム）CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正  
 プログラム情報（対副プログラム）CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文を図11.13に示す。  
 提供JCLファイル中のメンバ名は 'XREF1CSV' である。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR _____
//JOBCAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR _____ ③
//*
*** プログラム情報出力（対副プログラム） ***
//*
//STEP01 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM=(XREF, JOHO=PGSP), NOHANYO, CPY' _____ ④
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTPRO1'
//*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑤
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑥
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, UNIT=SYSDA, DISP=(, PASS),
// SPACE=(TRK, (100, 100)), DCB=BLKSIZE=11832 _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGLST DD DUMMY
//SYSOUT DD DUMMY
//*
*** CSV形式ファイル出力 ***
//*
//CSV EXEC PGM=JSMJGCSV, REGION=1024K,
// PARM=PGSP, SORT, TITLE' _____ ⑧
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, DISP=(OLD, DELETE)
//JSMHGCSV DD DSN=USER01. PGSP. CSV, UNIT=SYSDA, DISP=(, CATLG), _____ ⑨
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (50, 50), RLSE),
// DCB=BLKSIZE=11554
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.13 プログラム情報（対副プログラム）CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85ライブラリ，ADJUST（注）など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし，認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注）ADJUSTルーチンライブラリ名には，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑤ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑦ 中間ファイルの割当て容量およびブロック長（レコード長204の整数倍）を指定する。
- ⑧ PARMパラメタにCSV形式ファイル出力の実行時オプションを指定する。
- ⑨ CSV形式ファイルのデータセット名，ボリューム通し番号，割当て容量，DCB情報等を指定する。ブロック長は，レコード長77+4以上を指定する。

11.6.4 プログラム情報(対ファイル, レコード, コピー句) CSV形式ファイル出力用の  
ジョブ制御文の修正

プログラム情報(対ファイル, レコード, コピー句) CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文を

図11.14に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'XREF2CSV'である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR _____ ③
//*
//*** プログラム情報出力(対ファイル, レコード, コピー句) ***
//*
//STEP01 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM='(XREF, JOHO=PGFR), NOHANYO, CPY' _____ ④
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTPRO1'
//*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑤
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑥
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, UNIT=SYSDA, DISP=(, PASS),
// SPACE=(TRK, (100, 100)), DCB=BLKSIZE=11832 _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGLST DD DUMMY
//SYSOUT DD DUMMY
//*
//*** CSV形式ファイル出力 ***
//*
//CSV EXEC PGM=JSMJGCSV, REGION=1024K,
// PARM='PGFR, SORT, TITLE' _____ ⑧
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, DISP=(OLD, DELETE)
//JSMHGCSV DD DSN=USER01. PGFR. CSV, UNIT=SYSDA, DISP=(, CATLG), _____ ⑨
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (50, 50), RLSE),
// DCB=BLKSIZE=11764
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.14 プログラム情報(対ファイル, レコード, コピー句)  
CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85ライブラリ, ADJUST(注)など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし, 認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注) ADJUSTルーチンライブラリ名には, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑤ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑦ 中間ファイルの割当て容量およびブロック長(レコード長204の整数倍)を指定する。
- ⑧ PARMパラメタにCSV形式ファイル出力の実行時オプションを指定する。
- ⑨ CSV形式ファイルのデータセット名, ボリューム通し番号, 割当て容量, DCB情報等を指定する。ブロック長は, レコード長147+4以上を指定する。

11.6.5 プログラム情報 (対副プログラム, ファイル, レコード, コピー句)  
C S V形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正

プログラム情報 (対副プログラム, ファイル, レコード, コピー句) C S V形式ファイル出力用の  
ジョブ制御文を図11.15に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'XREF3CSV' である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR _____
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR _____ ③
//*
//*** プログラム情報出力
//* (対副プログラム, ファイル, レコード, コピー句) ***
//*
//STEP01 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM='(XREF, JOHO=PGAL), NOHANYO, CPY' _____ ④
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTPRO1'
//*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑤
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑥
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, UNIT=SYSDA, DISP=(, PASS),
// SPACE=(TRK, (100, 100)), DCB=BLKSIZE=11832 _____ ⑦
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGLST DD DUMMY
//SYSOUT DD DUMMY
//*
//*** C S V形式ファイル出力 ***
//*
//CSV EXEC PGM=JSMJGCSV, REGION=1024K,
// PARM='PGAL, SORT, TITLE' _____ ⑧
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, DISP=(OLD, DELETE)
//JSMHGCSV DD DSN=USER01. PGAL. CSV, UNIT=SYSDA, DISP=(, CATLG), _____ ⑨
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (50, 50), RLSE),
// DCB=BLKSIZE=10604
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.15 プログラム情報 (対副プログラム, ファイル, レコード, コピー句)  
C S V形式ファイル出力用のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL85ライブラリ, ADJUST (注) など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし, 認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注) ADJUSTルーチンライブラリ名には, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑤ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑦ 中間ファイルの割当て容量およびブロック長 (レコード長204の整数倍) を指定する。
- ⑧ PARMパラメタにC S V形式ファイル出力の実行時オプションを指定する。
- ⑨ C S V形式ファイルのデータセット名, ボリューム通し番号, 割当て容量, DCB情報等を指定する。ブロック長は, レコード長212+4以上を指定する。

### 11.6.6 メンバ一覧CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正

メンバ一覧CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文を図11.16に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は 'MLISTCSV' である。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR _____ ①
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR _____ ②
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR _____ ③
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR _____ ③
//*
//*** メンバ一覧出力 ***
//*
//STEP01 EXEC , PGM=JSMJG010, REGION=2048K, _____ ④
// PARM= (MLIST), CPY' _____ ④
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER=TEST/1
//*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑤
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑥
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, UNIT=SYSDA, DISP=(, PASS), _____ ⑦
// SPACE=(TRK, (100, 100)), DCB=BLKSIZE=11856 _____ ⑦
//JSMHG040 DD DSN=&&JSMHG040, UNIT=SYSDA, DISP=(, PASS), _____ ⑧
// SPACE=(TRK, (100, 100)), DCB=BLKSIZE=11880 _____ ⑧
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*
//*** CSV形式ファイル出力 ***
//*
//CSV EXEC , PGM=JSMJGCSV, REGION=1024K, _____ ⑨
// PARM= 'MLIST, SORT, TITLE' _____ ⑨
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. JCL, DISP=SHR _____ ⑤
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010, DISP=(OLD, DELETE)
//JSMHG040 DD DSN=&&JSMHG040, DISP=(OLD, DELETE)
//JSMHGCSV DD DSN=USER01. MLIST. CSV, UNIT=SYSDA, DISP=(, CATLG), _____ ⑩
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (50, 50), RLSE), _____ ⑩
// DCB=BLKSIZE=11848
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

図11.16 メンバ一覧CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文

- ① ロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリ, ADJUST (注) など必要プログラムのライブラリ名を指定する。  
ただし, 認定ライブラリとなっているものは指定してはならない。  
注) ADJUSTルーチンライブラリ名には, 動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ PARMパラメタに実行時オプションで機能の指定をする。
- ⑤ 入力元のソースライブラリを指定する。
- ⑥ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑦ メンバ一覧作成ファイルの割当て容量およびブロック長 (レコード長48の整数倍) を指定する。
- ⑧ 入口名ファイルの割当て容量およびブロック長 (レコード長8の整数倍) を指定する。
- ⑨ PARMパラメタにCSV形式ファイル出力の実行時オプションを指定する。
- ⑩ CSV形式ファイルのデータセット名, ボリューム通し番号, 割当て容量, DCB情報等を指定する。ブロック長は, レコード長84+4以上を指定する。

## 12. 稼働確認

このソフトウェアの稼働確認の方法を説明する。

### 12.1 プログラム管理表出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ 'DETAIL' を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.5.1 プログラム管理表出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

- － PARMパラメタ '(DETAIL, REC, SORT), HANYO, CPY' を指定する。
- － SYSIN制御文に@MOPT MEMBER='TESTPRO1' を指定する。
- － DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- － DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- － DD名JIMLIBに稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、図12.1と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。

NO	モジュール名	プログラム名	ステップ数	サブスキーマ名	データセット名	作成/更新日
1	TESTPRO1	TESTPRO1 テストプロ1	39 ( 40 )		(注3)	1988.05.26 1989.07.28

+ ファイル情報 +  
 < FD情報 >

DD名	ファイル名	レコード名	IO	編成	形式	コピー句名	レコード長
INDD	FILE1 ファイル1	REC1 レコード1	I	PS	F	COPY1 コピー1	30
OUTDD	FILE2 ファイル2	REC2 レコード2	O	PS			200

<WORK情報>

レコード名	コピー句名	レコード名	コピー句名
REC3 レコード3		REC4 レコード4	COPY2 コピー2
REC5 レコード5			

<LINKAGE情報>

レコード名	コピー句名	レコード長	レコード名	コピー句名	レコード長
REC6 レコード6	COPY3 コピー3	25	REC7 レコード7	COPY4 コピー4	2

+ 入口点情報 +

入口点名	入口種別	パラメタ
TESTPRO1 テストプロ1	一次	REC6 レコード6
TESTPRO2 テストプロ2	二次	REC7 レコード7

+ 副プログラム情報 +

副プログラム名	CALL種別	一意名	パラメタ
TESTPRO3 テストプロ3	定数		REC3 レコード3
TESTPRO7 テストプロ7	定数		
	変数	CALLNAME	REC4 レコード4

+ 実行部コピー句情報 +

コピー句名
COPY5 コピー5

注1) DF-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。  
 注2) DF-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。  
 注3) JCLのSOCLIBで指定したデータセット名が出力される。

図12.1 プログラム管理表出力機能の稼働確認ドキュメント

## 12.2 プログラム一覧出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'LIST'を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.5.2 プログラム一覧出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

- － PARMパラメタに'(LIST), HANYO, CPY'を指定する。
- － SYSIN制御文に@MOPT MEMBER=TEST/1を指定する。
- － DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- － DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- － DD名JIMLIBに稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、図12.2と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L30		日付****.**.** 時刻**.**.**		PAGE 1		
		(注1)		(注2)		
*** プログラム一覧 ***						
NO	プログラム名	プログラムID	レベル	作成日付	更新日付	備考
1	テストプロ1	TESTPRO1	01/14	1988.05.26	1989.07.28	
2	テストプロ3	TESTPRO3	01/02	1988.05.26	1988.07.01	
3	テストプロ4	TESTPRO4	01/01	1988.05.26	1988.07.01	
4	テストプロ5	TESTPRO5	01/01	1988.05.26	1988.07.01	
5	テストプロ6	TESTPRO6	01/03	1988.05.26	1988.07.01	

注1) DF-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

注2) DF-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。

図12.2 プログラム一覧出力機能の稼働確認ドキュメント

### 12.3 プログラム構造図出力機能の稼働確認

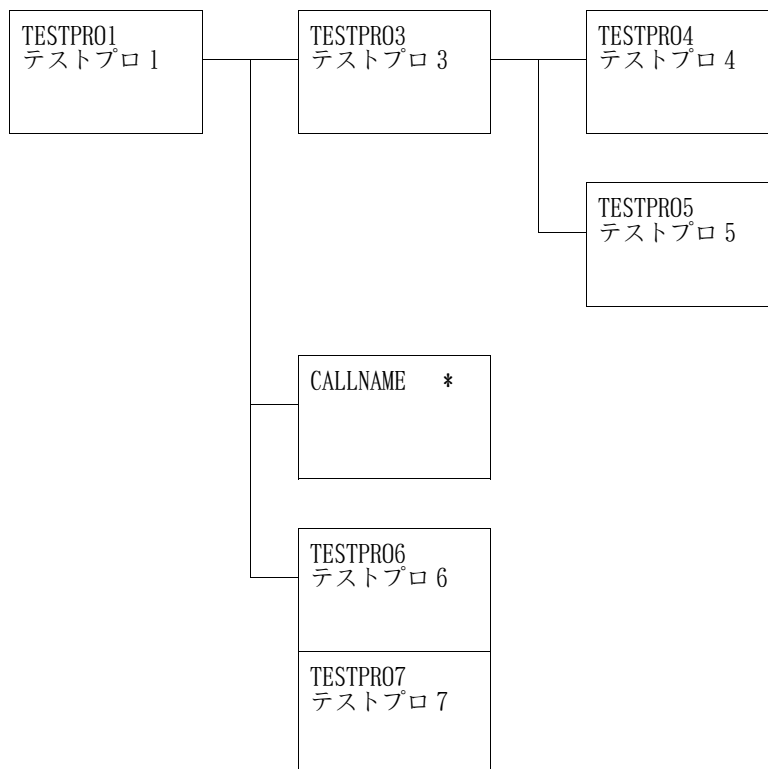
提供JCLファイルのメンバ' STRCT 'を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.5.3 プログラム構造図出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

- PARMパラメタに' (STRCT) , HANYO, CPY 'を指定する。
- SYSIN制御文に@MOPT MEMBER=' TESTPRO1 'と  
@SOPT SUBMEMBER=TEST/1を指定する。
- DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- DD名JIMLIBに稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、図12.3と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。

\*\*\* プログラム構造図 \*\*\*



~  
~

~  
~

注1) DF-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。  
注2) DF-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。

図12.3 プログラム構造図出力機能の稼働確認ドキュメント



## 12.4 プログラム情報出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'XREF'を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.5.4 プログラム情報出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

- － PARMパラメタに'(XREF, SORT), HANYO, CPY'を指定する。
- － SYSIN制御文に@MOPT MEMBER='TESTPRO1'を指定する。
- － DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- － DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- － DD名JIMLIBに稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、図12.4と同一のドキュメントが出力されるので確認されたい。

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L30		日付****.**.**	時刻**.**.**	PAGE 1		
		(注1)	(注2)			
*** プログラム情報 ***						
出力範囲	:	副プログラム	ファイル	レコード	コピー句	
SEQ	NO	プログラム名	副プログラム名	ファイル名	レコード名	コピー句名
1	1	TESTPRO1 テストプロ1	CALLNAME *	FILE1 ファイル1	REC1 レコード1	COPY1 コピー1
	2		TESTPRO3 テストプロ3	FILE2 ファイル2	REC2 レコード2	
	3		TESTPRO7 テストプロ7			
~						~
~						~

注1) DF-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。

注2) DF-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。

図12.4 プログラム情報出力機能の稼働確認ドキュメント

## 12.5 プログラム入出力情報ファイル出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'PIO'を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.5.5 プログラム入出力情報ファイル出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

- － PARMパラメタに' (PIOF), CPY'を指定する。
- － SYSIN制御文に@MOPT MEMBER='TESTPRO1'と  
@SOPT SUBMEMBER=TEST/1を指定する。
- － DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- － DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、プログラム入出力情報ファイルが出力される。

12.6 プログラム一覧出力機能のCSV形式ファイル出力の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'LISTCSV'を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.6.1 プログラム一覧CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

・情報出力（ステップ名：STEP01）

- PARMパラメタに' (LIST), NOHANYO, CPY'を指定する。
- SYSIN制御文に@MOPT MEMBER=TEST/1を指定する。
- DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。

・CSV形式ファイル出力（ステップ名：CSV）

- PARMパラメタに' LIST, SORT, TITLE'を指定する。
- DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、図12.5と同一のドキュメントおよび図12.6と同一のCSV形式ファイルが出力されるので確認されたい。

```

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L30          日付****.**,** 時刻**,**,**          PAGE 1
                                (注1)          (注2)
** 指定パラメタ **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----*-----8-----*-----0
LIST, SORT, TITLE

** 確定パラメタ **
LIST      SORT      TITLE

** CSV出力メッセージ **
      情報編集名      :      プログラム一覧
      出力範囲        :
      入力項目数      :      5 件
      CSVレコード数   :      6 件

** 実行結果メッセージ **
      最大重大度コード = 00

~
~

```

注1) DF-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。  
 注2) DF-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。

図12.5 プログラム一覧出力機能のCSV形式ファイル出力の稼働確認ドキュメント

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----+-----8-----
NO, プログラムID, レベル, 作成日付, 更新日付
1, TESTPRO1, V01L14, 1988/05/26, 1989/07/28
2, TESTPRO3, V01L02, 1988/05/26, 1988/07/01
3, TESTPRO4, V01L01, 1988/05/26, 1988/07/01
4, TESTPRO5, V01L01, 1988/05/26, 1988/07/01
5, TESTPRO6, V01L03, 1988/05/26, 1988/07/01

```

図12.6 プログラム一覧出力機能のCSV形式ファイル出力の稼働確認CSV形式ファイル

12.7 プログラム構造図出力機能のCSV形式ファイル出力の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ' STRCTCSV 'を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.6.2 プログラム構造図CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

・情報出力（ステップ名：STEP01）

- PARMパラメタに' (STRCT), NOHANYO, CPY 'を指定する。
- SYSIN制御文に@MOPT MEMBER='TESTPRO1'と  
@SOPT SUBMEMBER=TEST/1を指定する。
- DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。

・CSV形式ファイル出力（ステップ名：CSV）

- PARMパラメタに' STRCT, TITLE 'を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、図12.7と同一のドキュメントおよび図12.8と同一のCSV形式ファイルが出力されるので確認されたい。

```

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L30          日付****.**,** 時刻**,**,**          PAGE 1
                                (注1)          (注2)
** 指定パラメタ **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----*---- } }-----*-----0
STRCT, TITLE

** 確定パラメタ **
STRCT  NOSORT  TITLE

** CSV出力メッセージ **
      情報編集名      :   プログラム構造図
      出力範囲        :
      入力項目数      :           4 件
      CSVレコード数   :           5 件

** 実行結果メッセージ **
      最大重大度コード = 00

~
~

```

注1) DF-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。  
注2) DF-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。

図12.7 プログラム構造図出力機能のCSV形式ファイル出力の稼働確認ドキュメント

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7- } } 6-----+-----7---
主プログラム名,主種別,主抑制,副プログラム名1階層,副二次入口点名1階層, } },副抑制8階層
TESTPRO1,, TESTPRO3,, , TESTPRO4,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
TESTPRO1,, TESTPRO3,, , TESTPRO5,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
TESTPRO1,, CALLNAME, , I,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
TESTPRO1,, TESTPRO6, TESTPRO7, #,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,

```

図12.8 プログラム構造図出力機能のCSV形式ファイル出力の稼働確認CSV形式ファイル

12.8 プログラム情報出力機能（対副プログラム）のCSV形式ファイル出力の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'XREF1CSV'を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.6.3 プログラム情報（対副プログラム）CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

- ・情報出力（ステップ名：STEP01）
  - － PARMパラメタに'（XREF, JOHO=PGSP）, NOHANYO, CPY'を指定する。
  - － SYSIN制御文に@MOPT MEMBER='TESTPRO1'を指定する。
  - － DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
  - － DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- ・CSV形式ファイル出力（ステップ名：CSV）
  - － PARMパラメタに'PGSP, SORT, TITLE'を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、図12.9と同一のドキュメントおよび図12.10と同一のCSV形式ファイルが出力されるので確認されたい。

```

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L30                日付****.**,** 時刻**,**,**                PAGE 1
                                     (注1)                (注2)
** 指定パラメタ **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----*-----* ) ) -----*-----0
PGSP, SORT, TITLE

** 確定パラメタ **
PGSP      SORT      TITLE

** CSV出力メッセージ **
      情報編集名      :      プログラム情報編集
      出力範囲        :      副プログラム
      入力項目数      :      1 件
      CSVレコード数   :      4 件

** 実行結果メッセージ **
      最大重大度コード = 00

~
~

```

注1) DF-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。  
 注2) DF-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。

図12.9 プログラム情報出力機能（対副プログラム）のCSV形式ファイル出力の稼働確認ドキュメント

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----+-----8
プログラム名, 副プログラム名, 一意名区分
TESTPRO1, CALLNAME, *
TESTPRO1, TESTPRO3,
TESTPRO1, TESTPRO7,

```

図12.10 プログラム情報出力機能（対副プログラム）のCSV形式ファイル出力の稼働確認CSV形式ファイル

12.9 プログラム情報出力機能（対ファイル、レコード、コピー句）のCSV形式ファイル出力の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'XREF2CSV'を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.6.4 プログラム情報（対ファイル、レコード、コピー句）CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

・情報出力（ステップ名：STEP01）

- PARMパラメタに' (XREF, JOHO=PGFR), NOHANYO, CPY 'を指定する。
- SYSIN制御文に@MOPT MEMBER='TESTPRO1'を指定する。
- DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。

・CSV形式ファイル出力（ステップ名：CSV）

- PARMパラメタに' PGFR, SORT, TITLE 'を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、図12.11と同一のドキュメントおよび図12.12と同一のCSV形式ファイルが出力されるので確認されたい。

```

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L30                日付****. **. **   時刻**. **. **   PAGE 1
                                     (注1)                (注2)
** 指定パラメタ **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----*-----8-----*-----9-----*-----0
PGFR, SORT, TITLE

** 確定パラメタ **
PGFR      SORT      TITLE

** CSV出力メッセージ **
      情報編集名      :      プログラム情報編集
      出力範囲        :      ファイル レコード コピー句
      入力項目数      :      1 件
      CSVレコード数   :      3 件

** 実行結果メッセージ **
      最大重大度コード = 00

~
~

```

注1) DF-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。  
注2) DF-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。

図12.11 プログラム情報出力機能（対ファイル、レコード、コピー句）のCSV形式ファイル出力の稼働確認ドキュメント

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----+-----8-----
プログラム名, ファイル名, レコード名, コピー句名
TESTPRO1, FILE1, REC1, COPY1
TESTPRO1, FILE2, REC2,

```

図12.12 プログラム情報出力機能（対ファイル、レコード、コピー句）のCSV形式ファイル出力の稼働確認CSV形式ファイル

12.10 プログラム情報出力機能（対副プログラム、ファイル、レコード、コピー句）のCSV形式  
ファイル出力の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'XREF3CSV'を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.6.5 プログラム情報（対副プログラム、ファイル、レコード、コピー句）  
CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

・情報出力（ステップ名：STEP01）

- PARMパラメタに' (XREF, JOHO=PGAL), NOHANYO, CPY 'を指定する。
- SYSIN制御文に@MOPT MEMBER='TESTPRO1'を指定する。
- DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。

・CSV形式ファイル出力（ステップ名：CSV）

- PARMパラメタに'PGAL, SORT, TITLE'を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、図12.13と同一のドキュメントおよび図12.14と  
同一のCSV形式ファイルが出力されるので確認されたい。

```

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L30                日付****. **. **   時刻**. **. **. **   PAGE 1
                                     (注1)                (注2)
** 指定パラメタ **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----*-----8-----*-----9-----*-----0
PGAL, SORT, TITLE

** 確定パラメタ **
PGAL      SORT      TITLE

** CSV出力メッセージ **
情報編集名      :   プログラム情報編集
出力範囲        :   副プログラム   ファイル   レコード   コピー句
入力項目数      :   1 件
CSVレコード数   :   6 件

** 実行結果メッセージ **
最大重大度コード = 00

~
~

```

注1) DF-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。  
注2) DF-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。

図12.13 プログラム情報出力機能（対副プログラム、ファイル、レコード、コピー句）の  
CSV形式ファイル出力の稼働確認ドキュメント

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----+-----8-----
プログラム名, 副プログラム名, 一意名区分, ファイル名, レコード名, コピー句名
TESTPRO1, ,, FILE1, REC1, COPY1
TESTPRO1, ,, FILE2, REC2,
TESTPRO1, CALLNAME, *, ,,
TESTPRO1, TESTPRO3, ,,
TESTPRO1, TESTPRO7, ,,

```

図12.14 プログラム情報出力機能（対副プログラム、ファイル、レコード、コピー句）の  
CSV形式ファイル出力の稼働確認CSV形式ファイル

12.11 メンバー一覧出力機能のCSV形式ファイル出力の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'MLISTCSV'を修正し、実行する。

修正する箇所は“11.6.6 メンバー一覧CSV形式ファイル出力用のジョブ制御文の修正”を参照し、以下のとおりに修正する。

・情報出力（ステップ名：STEP01）

- － PARMパラメタに'（MLIST），CPY'を指定する。
- － SYSIN制御文に@MOPT MEMBER=TEST/1を指定する。
- － DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。
- － DD名SYSLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。

・CSV形式ファイル出力（ステップ名：CSV）

- － PARMパラメタに'MLIST，SORT，TITLE'を指定する。
- － DD名SOCLIBに提供JCLファイルのデータセット名を指定する。

修正後ジョブ制御文を実行して、正常に稼働した場合は、図12.15と同一のドキュメントおよび図12.16と同一のCSV形式ファイルが出力されるので確認されたい。

```

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L30          日付****.**,**.* 時刻**,**,**          PAGE 1
                                (注1)          (注2)
** 指定パラメタ **
-----*-----1-----*-----2-----*-----3-----*-----4-----*-----5-----*-----6-----*-----7-----*-----*-----*-----0
MLIST,SORT,TITLE

** 確定パラメタ **
MLIST  SORT      TITLE

** CSV出力メッセージ **
      情報編集名      :      メンバー一覧
      出力範囲        :
      入力項目数      :      5 件
      CSVレコード数   :      6 件

** 実行結果メッセージ **
      最大重大度コード = 00

~
~

```

注1) DF-PROGRAMを稼働させた日付が出力される。  
 注2) DF-PROGRAMを稼働させた時刻が出力される。

図12.15 メンバー一覧出力機能のCSV形式ファイル出力の稼働確認ドキュメント

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----+-----8
NO,メンバ名,プログラムID,二次入口点名,レベル,作成日付,更新日付
1,TESTPRO1,TESTPRO1,TESTPRO2,V01L14,1988/05/26,1989/07/28
2,TESTPRO3,TESTPRO3,,V01L02,1988/05/26,1988/07/01
3,TESTPRO4,TESTPRO4,,V01L01,1988/05/26,1988/07/01
4,TESTPRO5,TESTPRO5,,V01L01,1988/05/26,1988/07/01
5,TESTPRO6,TESTPRO6,TESTPRO7,V01L03,1988/05/26,1988/07/01

```

図12.16 メンバー一覧出力機能のCSV形式ファイル出力の稼働確認CSV形式ファイル



### 13. 日本語名標辞書データ変換プログラム

このプログラムはCOBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者のために提供するものであり、順アクセス形式からランダムアクセス形式（ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語項目変換辞書の形式）に日本語名標辞書の作成データを変換するものである。

COBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者は、このプログラムで変換した作成データから、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティでランダムアクセス形式の日本語名標辞書を再作成して、当ソフトウェアで使用されたい。

#### A) フォーマットの変換方法

当プログラムを使用した場合に、日本語名標辞書の作成データがどのように変換されるかを、図13.1に示し、各フィールドについて説明する。なお、当ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については、適用マニュアルを参照されたい。

◆【1】 4.2.2

#### 【変換前】

レコード長：120バイト

キー部	読み部	日本語データ部
30バイト	30バイト	60バイト

#### 【変換後】

レコード長：124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	60バイト	30バイト

図13.1 フォーマットの変換方法

#### 1) キー部

##### － 項目キー

変換前の30バイトのキーの後ろ2バイトを切り捨てて、28バイトの項目キーに設定される。

##### － 順序番号

順序番号に'01'が設定される。

#### 2) レコード数

レコード数に01が設定される。

#### 3) 有効文字数

有効文字数に30が設定される。

#### 4) 日本語データ部

変換前の日本語データ部の内容がそのまま設定される。

#### 5) 読み部

変換前の読み部の内容がそのまま設定される。

B) 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

当プログラムを使用して、日本語名標辞書を再作成する場合のジョブフローを図13.2に示す.

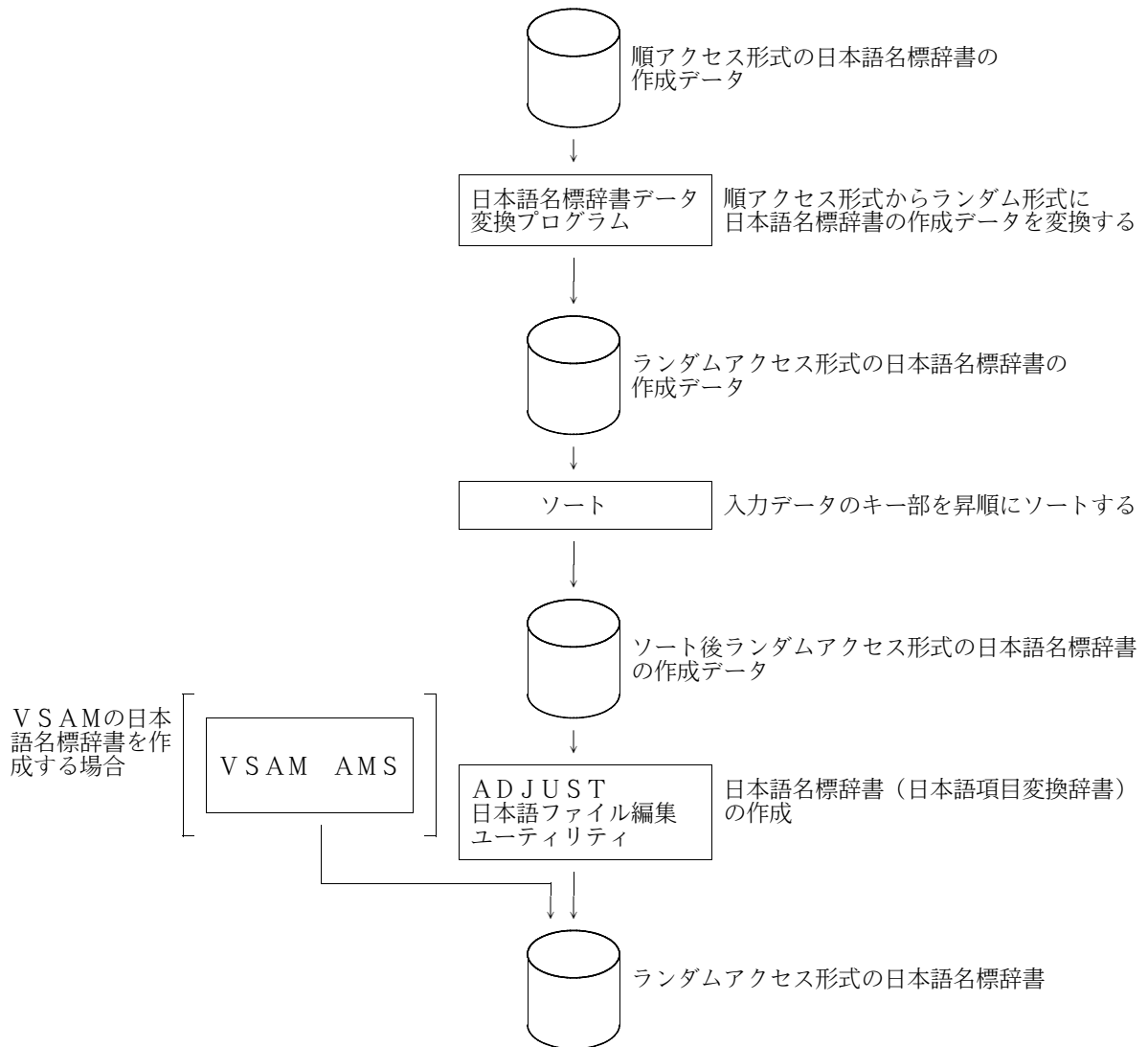


図13.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

C) 実行ジョブ制御文

日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文の例を図13.3に示し、説明する。ユーティリティ用提供JCLファイル中のメンバ名は'JSMJGDCT'である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名など利用者の環境に合わせて変更されたい。

日本語名標辞書をVSAMで作成しない場合は、KQCAMS1のステップは実行しなくてよい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01Y JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//*****
//*           日本語名標辞書      再創成           *
//*****
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. UTYLOAD, DISP=SHR -----①
//        DD DSN=SYS1. C85. LINKLIB, DISP=SHR -----②
//        DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR -----③
//JOBCAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR -----③
//*****
//*           D E F I N E   C L U S T E R           *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS, REGION=1024K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
//DEFINE CLUSTER -----
//        (NAME (USER01. RAN. NDICT) -----④ -----
//        UNIQUE -----⑤ -----
//        VOLUMES (DASD01) -----⑥ -----
//        INDEXED -----
//        IMBED -----
//        KEYS (30 0) -----
//        TRACKS (5 1) -----⑦ -----
//        RECORDSIZE (124 124) -----
//        DATA -----⑧ -----
//        (NAME (USER01. RAN. NDICT. DATA) -----
//        INDEX -----⑨ -----
//        (NAME (USER01. RAN. NDICT. IDX) -----
//*
//*****
//*           日本語名標辞書  入力データ変換JCL      *
//*           順アクセス→ランダムアクセス           *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMJGDCT, REGION=1024K
//JSMJUN DD DSN=USER01. JUN. NDATA, DISP=SHR -----⑩
//JSMRAN DD DSN=&&RAN, DISP=(NEW, PASS), UNIT=SYSDA,
//        DCB=(RECFM=FB, LRECL=124, BLKSIZE=1240),
//        SPACE=(TRK, (50, 10)) -----⑪
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//*****
//*           ソート                                     *
//*****
//SORT1 EXEC PGM=SORT, REGION=1024K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=&&RAN, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//SORTOUT DD DSN=&&PROGRAM, DISP=(NEW, PASS), UNIT=SYSDA,
//        SPACE=(TRK, (50, 10)), -----⑪
//        DCB=(RECFM=FB, LRECL=124, BLKSIZE=1240)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 20))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 20))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 20))
//SYSIN DD *
//        SORT FIELDS=(1, 30, CH, A)
//*

```

図13.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例 (続く)

```

//*****
//*          日本語ファイル編集ユーティリティ          *
//*****
//JAFE1 EXEC PGM=JRQJAFE, REGION=1024K
//JAFLIB DD DSN=USER01.RAN.NDICT, DISP=SHR ⑫
//CHGLIB DD DSN=*&PROGRAM, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSLIST DD DUMMY
//SYSIN DD *
- ADD OUT(JAFLIB), FIELDS=((30, A), (2, A, R), (2, A, R), (30, K), (30, A))
- FORMAT SAME
- CHGIN IN(CHGLIB)
- END
/*
//

```

図13.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例（続き）

- ① 日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールが格納されているデータセット名を指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリおよびADJUSTのライブラリ名（注）を指定する。認定ライブラリとなっている場合は指定してはならない。  
注) ADJUSTルーチンライブラリ名には、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のクラスタ名を指定する。
- ⑤ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のVSAMデータセットをUNIQUE属性にしない場合は、削除する。
- ⑥ VSAMの日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号を指定する。
- ⑦ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のVSAMデータセットの割当て容量を指定する。
- ⑧ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータ部名を指定する。
- ⑨ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のインデックス部名を指定する。
- ⑩ 順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのデータセット名を指定する。
- ⑪ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の作成データの割当て容量を指定する。
- ⑫ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータセット名を指定する。  
VSAMの場合は、④のクラスタ名を指定し、順編成のランダムアクセス形式の日本語名標辞書を作成する場合は、レコードが124バイトの固定長レコード形式のデータセット名を指定する。

#### D) 注意事項

当プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- － キー部のデータに重複しているものがあるなど、入力元の順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データに不備があっても、当プログラムはチェックおよびエラー処理を行わないので、そのまま変換される。
- － ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の項目キーは28バイト以内でなければならないので、順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのキー部に29バイト以上のデータがある場合、29バイト以降が切り捨てて変換される。

#### 14. 日本語名標辞書←→項目ディクショナリ変換プログラム

このプログラムは、Windows版のDFシリーズを使用している利用者のために提供するものであり、ホスト版のDFシリーズで使用しているランダムアクセス形式の日本語名標辞書から項目ディクショナリに作成データを変換するものである。

提供媒体の格納番号5でロードモジュール、格納番号6で実行ジョブ制御文を提供している。

なお、本ユーティリティは項目ディクショナリから日本語名標辞書を還元することも可能であるため、Windows版のDFシリーズを使用時に新たにデータを追加した場合等にもホスト上の日本語名標辞書を再作成することが可能である。

##### A) フォーマットの変換方法

本プログラムを使用した場合に日本語名標辞書の作成データがどのように変換されるかを図14.1に示し、各フィールドについて説明する。なお、本ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については、適用マニュアルを参照されたい。

◆【1】 4.2.2

##### 【日本語名標辞書】

レコード長：36バイト～124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	2～60バイト	0～30バイト

##### 【項目ディクショナリ】

レコード長：1024バイト

カテゴリID	英数字データ項目名	日本語データ項目名	データ項目作成日	データ項目作成時刻
2バイト	30バイト	60バイト	6バイト	6バイト

図14.1 フォーマットの変換方法（日本語名標辞書の場合）

##### 1) カテゴリID

データ項目情報を示す'DM'が設定される。

##### 2) 英数字データ項目名

変換前の項目キーの内容が、30バイトの項目に設定される。後ろ2バイトには空白が設定される。

##### 3) 日本語データ項目名

変換前の日本語データ部がそのまま日本語データ項目名に設定される。日本語データ部が60バイト以下の場合には、後ろバイトにすべて空白が設定される。

##### 4) データ項目作成日

本データの作成日が設定される。

##### 5) データ項目作成時刻

本データの作成時刻が設定される。

## B) 項目ディクショナリ作成のジョブフロー

本プログラムを使用して、項目ディクショナリを作成する場合のジョブフローを図14.2および図14.3に示す。

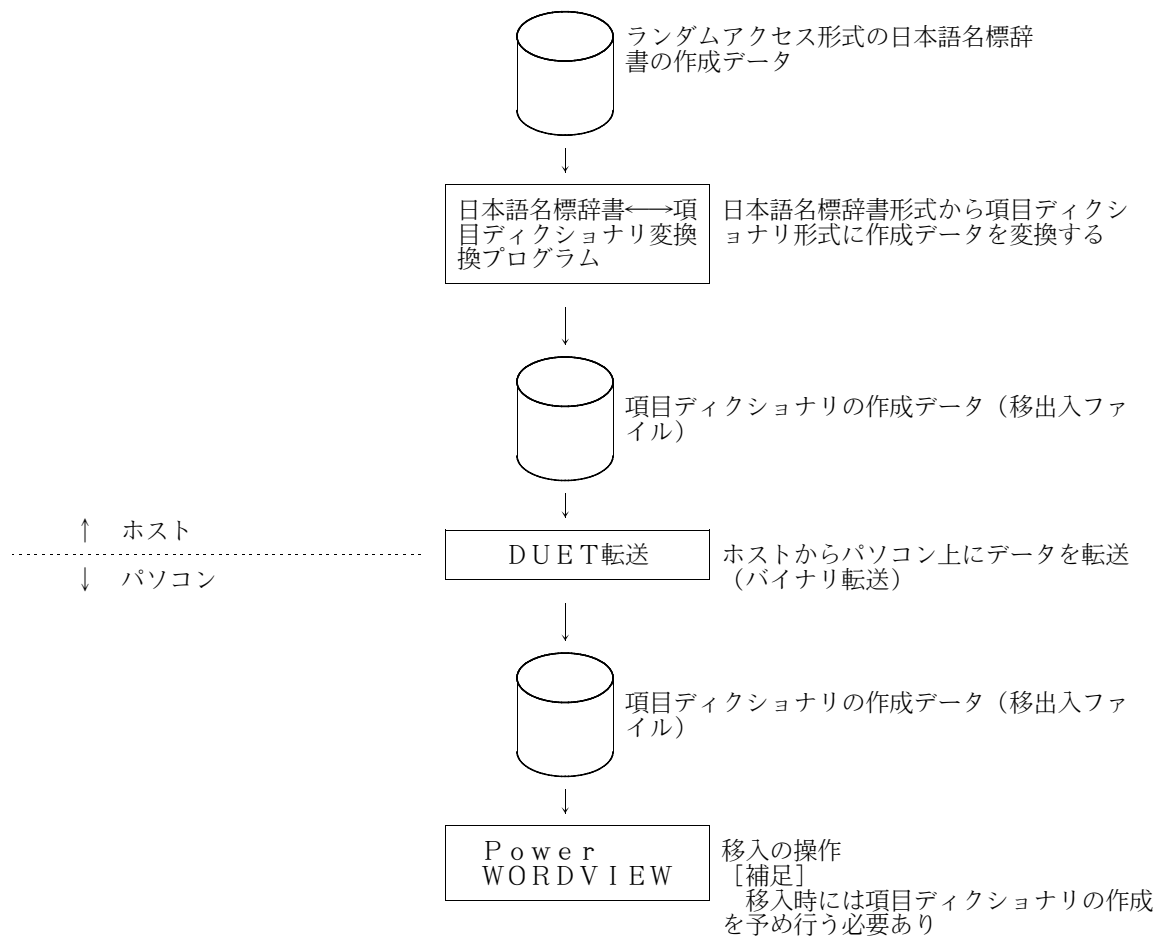


図14.2 項目ディクショナリへの移入操作

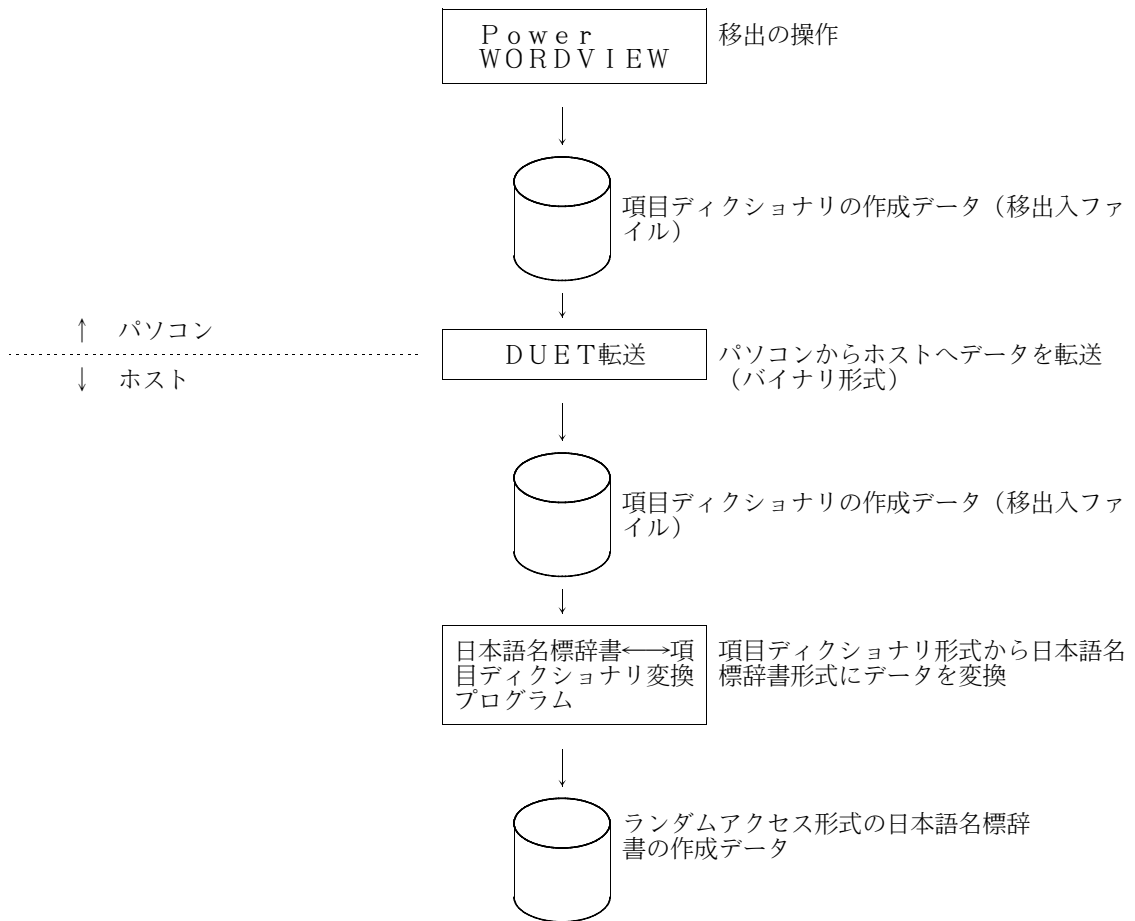


図14.3 項目ディクショナリからの移出操作

C) 実行ジョブ制御文

項目ディクショナリ作成用プログラムのジョブ制御文を図14.4に示し説明する。ユーティリティ用提供 JCL ファイル中のメンバ名は ' J S M J G K N I ' である。

下線部分は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。また、ジョブ名、装置名なども利用者の環境に合わせて変更されたい。

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//*****
//* 日本語名標辞書 ←→ 項目ディクショナリ移出入ファイル *
//*****
//JOBLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. UTYLOAD, DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR ②
// DD DSN=SYS1. C85. LINKLIB, DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR ③
//KMD1 EXEC PGM=JSMJGKN1, REGION=1024K, PARM='KDCT' ④
//*KMD1 EXEC PGM=JSMJGKN1, REGION=1024K, PARM='NDCT'
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMNDCTI DD DSN=USER01. PROGRAM. NDICT, DISP=SHR ⑤
//JSMKDCTO DD DSN=USER01. PROGRAM. ISYU, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG), ⑥
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE), ⑦
// DCB=(RECFM=F, LRECL=1024, BLKSIZE=1024)
//*JSMKDCTI DD DSN=USER01. PROGRAM. ISYU, DISP=SHR ⑧
//*JSMNDCTO DD DSN=USER01. PROGRAM. NDICT, UNIT=SYSDA, DISP=(NEW, CATLG), ⑨
//* VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (10, 10), RLSE), ⑩
//* DCB=(RECFM=FB, LRECL=124, BLKSIZE=1240)
//

```

図14.4 日本語名標辞書←→項目ディクショナリ作成用プログラムのジョブ制御文

- ① 項目ディクショナリ作成用プログラムのロードモジュールが格納されているデータセットを指定する。
- ② COBOL 85 ライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は指定してはならない。
- ③ 必要に応じてユーザカタログ名を指定する。
- ④ 日本語名標変換処理に関するパラメタを指定する。  
日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合：'KDCT'  
項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合：'NDCT'
- ⑤ 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合に、入力となる日本語名標辞書の作成データ（順編成データセット）を指定する。  
アクセス名：'JSMNDCTI'
- ⑥ 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合に、出力となる項目ディクショナリの作成データ（順編成データセット）を指定する。  
アクセス名：'JSMKDCTO'
- ⑦ 項目ディクショナリの作成データのボリューム通し番号、割当て容量、DCB情報等を指定する。
- ⑧ 項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合に、入力となる項目ディクショナリの作成データ（順編成データセット）を指定する。  
アクセス名：'JSMKDCTI'
- ⑨ 項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合に、出力となる日本語名標辞書の作成データ（順編成データセット）を指定する。  
アクセス名：'JSMNDCTO'
- ⑩ 日本語名標辞書の作成データのボリューム通し番号、割当て容量、DCB情報等を指定する。



#### D) 制限事項

本プログラムの使用上の制限事項を説明する。

- － 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合、扱える日本語名標辞書の形式は、ランダムアクセス形式のもののみである。
- － 日本語名標辞書のデータセット編成は、入出力共に順編成のみ扱える。
- － 日本語名標辞書から項目ディクショナリを作成する場合、日本語名標辞書の読み部は出力されない。また、項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合、読み部には空白のみ出力される。
- － 項目ディクショナリから日本語名標辞書を作成する場合は新規作成のみ可能であり、またその場合は124バイトの固定長で作成される。

15. 適用マニュアルの正誤表

マニュアル名称	マニュアルコード
OSIV SIMPLIA/DF-PROGRAM 解説書	J1M0-9810-01

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
1	2	1.4 機能概要 a) プログラム単体からのドキュメント	－ プログラム管理表出力機能	テキスト形式ファイルに出力することも可能である。 － プログラム管理表出力機能
2	2	1.4 機能概要 b) プログラム群からのドキュメント	－ プログラム一覧出力機能 － プログラム構造図出力機能	CSV形式のファイルに出力することも可能である。 － プログラム一覧出力機能 － プログラム構造図出力機能 － メンバー一覧出力機能
3	3	図1.1 DF-PROGRAMの機能体系図	（記述追加）	“プログラム入力情報ファイル出力機能”および“メンバー一覧出力機能”を追加
4	9	2.1 プログラム管理表出力機能	… 'DETAIL' を指定する。ドキュメントは次の五つから構成され出力される順に説明する。	… 'DETAIL' を指定する。実行時オプション 'FILE' の指定により、プログラム管理表（帳票と同じ情報）をテキスト形式のファイルとして出力することも可能である。ドキュメントは次の5つから構成される。
			出力例を図2.1に示しそれぞれの説明をする。	出力例を図2.1および図2.aに示し、上記の各情報を順に説明する。
5	10	2.1 プログラム管理表出力機能 出力例	プログラム管理表のテキスト形式ファイル出力例を追加 ◆参照 → 15.1	
6	12	2.1 プログラム管理表出力機能 b) ファイル情報 1) FD情報	…ファイルに関する情報が出力される。	…ファイルに関する情報が出力される。FD情報の拡張出力として、副プログラムまで含めたIO情報をDD名ごとに集約して出力することもできる。
7	12	2.1 プログラム管理表出力機能 b) ファイル情報 1) FD情報 ①	（記述追加）	FD情報を拡張出力する場合は、DD名ごとの最終行に“@”が出力される。
8	12	2.1 プログラム管理表出力機能 b) ファイル情報 1) FD情報 ⑥	FD情報を拡張出力する場合の説明を追加 ◆参照 → 15.2	
9	15	2.2 プログラム一覧図出力機能	… 'LIST' を指定する。	… 'LIST' を指定する。 プログラム一覧をCSV形式のファイルとして出力することも可能である。CSV形式ファイルの出力方法はCを参照されたい。
10	16	2.3 プログラム構造図出力機能	… 'STRCT' を指定する。プログラムの…	… 'STRCT' を指定する。 プログラム構造図をCSV形式のファイルとして出力することも可能である。CSV形式ファイルの出力方法は付録Cを参照されたい。 プログラムの…

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
1 1	20	第2章 機能	2.5 プログラム入出力情報ファイル出力機能 2.6 メンバー一覧出力機能 ◆参照 → 15.3	
			2.5 共通機能	2.7 共通機能
1 2	30	表3.1 実行時オプション記述形式一覧 分類：プログラム管理表	[, LINE= { $\frac{62}{n}$ }]	[, { $\frac{62}{n}$ } FILE]
	31	3.1.2.1 プログラム管理表出力機能オプション		
1 3	30	表3.1 実行時オプション記述形式一覧 分類：プログラム管理表	(記述追加)	[, { <u>SUBIO</u> <u>NOSUBIO</u> }]
	31	図3.1 プログラム管理表出力機能オプション図		
1 4	30	表3.1 実行時オプション記述形式一覧	分類：プログラム入出力情報ファイルとして以下の実行時オプションを追加 (PIOF [, LEVEL= { $\frac{8}{n}$ }])	
1 5	30	表3.1 実行時オプション記述形式一覧	分類：メンバー一覧として以下の実行時オプションを追加 (MLIST)	
1 6	31	3.1.2.1 プログラム管理表出力機能オプション LINE	当オプションを省略した場合は、'62'が指定されたものとみなす。	'FILE'を指定した場合は、ドキュメントをテキスト形式ファイルに出力する。 当オプションを省略した場合は、'LINE=62'が指定されたものとみなす。
1 7	31	3.1.2.1 プログラム管理表出力機能オプション	SUBIOオプションの説明を追加	◆参照 → 15.4
1 8	33	3.1.2 実行時オプション	3.1.2.5 プログラム入出力情報ファイル出力機能オプションを追加 3.1.2.6 メンバー一覧出力機能オプションを追加 ◆参照 → 15.5 共通オプションの項番は3.1.2.7に変更	
1 9	33	3.1.2.5 共通オプション	(記述追加)	ただし、プログラム入出力情報ファイル出力機能およびメンバー一覧出力機能の場合、日本語変換出力に関するオプション (HANYO, SL, HYP1, HYP2, DPL, ISL, およびIPL) は無効であり 'NOHANYO' が省略値となる。
2 0	41	3.1.3.5 @SOPT制御文	@SOPT制御文は、プログラム構造図出力機能だけ指定できる。	@SOPT制御文は、プログラム構造図出力機能およびプログラム入出力情報ファイル出力機能において指定できる。
2 1	44	表3.7 必要DD文一覧 DD名：IMAGELIB ブロック長	26793 (6144)	6144

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
2 2	44	表3.7 必要DD文一覧	DD名JSMHGPI0, JSMHGDTL, およびJSMHG040を追加 ◆参照 → 15.6	
2 3	45	表3.8 情報オプション別必要DD文量容一覧	DD名：JSMHG010に追加	出力機能：メンバー一覧出力機能 フォーマット識別名：— レコード形式：F,FB レコード長：48 ブロック長：レコード長×n
2 4	46	3.2 必要DD文	(記述追加)	18) JSMHGPI0 ドキュメントキーワード 'PIOF' または実行時オプション 'SUBIO' 指定時、プログラム 入出力情報ファイルを指定する。 19) JSMHGDTL 実行時オプション 'FILE' 指定時、プログラム管理表の テキスト形式ファイルを指定する。 20) JSMHG040 ドキュメントキーワード 'MLIST' 指定時、入口名 ファイルを指定する。
2 5	47	図3.18 プログラム管理表出力機能のジョブフロー入力	(記述追加)	入力データセットとして [JSMHGPI0] プログラム入出力情報 ファイルを追加
2 6	47	図3.18 プログラム管理表出力機能のジョブフロー出力	(記述追加)	出力データセットとして [JSMHGDTL] テキスト形式 ファイルを追加
2 7	48	図3.19 プログラム管理表出力機能のジョブ制御文例(MSP)	// PARM='(DETAIL, REC), HANYO, ISL=4, CPY' (記述追加)	// PARM='(DETAIL, REC, SUBIO), HANYO, ISL=4, CPY' //JSMHGPI0 DD DSN=010001.T EST. JSMHGPI0, DISP=SHR
2 8	49	図3.20 プログラム管理表出力機能のジョブ制御文例(XSP)	¥ PARA (DETAIL, REC), HANYO, ISL=4, CPY (記述追加)	¥ PARA (DETAIL, REC, SUBIO), HANYO, ISL=4, CPY ¥ FD JSMHGPI0=DA, FILE=E110B31. TEST. JSMHGPI0
2 9	58	3.3 使用例	3.3.5 プログラム入出力情報ファイル出力機能の使用例を追加 3.3.6 メンバー一覧出力機能の使用例を追加 ◆参照 → 15.7	
3 0	61 63 64 67	4.2.2 日本語名標辞書	ユティリティ	ユーティリティ
3 1	68	図4.9 システム構成図入力	(記述追加)	機能により省略可能な 入力データセットとして プログラム入出力情報 ファイルを追加

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
3 2	68	図4.9 システム構成図 出力	出力帳票として プログラム管理表	出力帳票およびデータセットとして プログラム管理表
			(記述追加)	出力側 ・機能：プログラム入出力情報 ファイル出力機能 - プログラム入出力情報ファイル（データセット） - 実行結果リスト（帳票） - SYSOUT [DUMMY]（帳票） ・機能：メンバー一覧出力機能 - メンバー一覧作成ファイル（データセット） - 入口名ファイル（データセット） - 実行結果リスト（帳票）
3 3	69	図4.10 プロセスフロー 利用者の用途に応じたドキュメント	(記述追加)	メンバー一覧：メンバの入口点情報を一覧で
3 4	70	表4.5 DASD容量見積り	プログラム入出力情報ファイルおよび入口名ファイルを追加 ◆参照 → 15. 8	
3 5	70	表4.6 情報オプション別DASD容量 見積り	(記述追加)	出力機能：メンバー一覧出力機能 ファイル編成：PS レコード形式：F, FB レコード長：48 ブロック長：レコード長×n
3 6	71	4.6 制限事項 d)	- COPY命令のOF指定, IN指定は無視される。…先頭のデータセット中のメンバを対象とする。	- COPY命令のOF/IN指定は無視される。…先頭のデータセット中のメンバを対象とする。 なお、プログラム管理表にレコード長を出力する場合は、OF/IN指定のDD名を実行JCLに指定する。ただし、レコード長が保証されるのはOF/IN指定のないレコード定義であり、OF/IN指定のあるレコード定義のレコード長は保証されない。
3 7	72	4.6 制限事項 e)	- 仮原文-2, 一意名-2, 定数-2 又は語-2 の文字列が予約語の場合は、置換は行われない。	(記述削除)
3 8	72	4.6 制限事項 g)	REPORT SECTION内の記述は無視する。	REPORT SECTION内の記述は無視する。CONSTANT SECTIONも同様。
3 9	72	4.6 制限事項 j)	@MOPT 制御文で検索対象となるソースプログラムはメンバ名とプログラムIDが同一のものとする。	SYSIN制御文で検索対象となるソースプログラムはメンバ名とプログラムIDが同一のものとする。
4 0	73	4.6 制限事項	(記述追加)	k) プログラム管理表出力機能の制限 FD情報において、DD名とファイル名の関係が1対1ではない場合、複数定義されているDD名およびファイル名は出力されない。

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
4 1	73	4.7 注意事項	(記述追加)	<p>h) プログラム管理表出力機能について SUBIOオプションを指定した場合、副プログラムのみにあるDD名は、SORTオプションの指定によらずFD情報の最後に出力される。</p> <p>i) プログラム入出力情報ファイル出力機能について - 副プログラムが二次入口点または内部プログラムの場合でも、メンバ全体における入出力情報(DD名、IO情報)が出力される。 - プログラム名が複数メンバで重複している場合の結果は保証されない。プログラム名、二次入口点名、および内部プログラム名がソースライブラリで一意であることを事前に確認する必要がある。 - @SOPT制御文を指定する場合、副プログラムが資産として存在するかどうかを事前に確認する必要がある(副プログラムが存在しない場合でもメッセージは出力されないため)。</p>
4 2	89 92 97-101	第5章 診断メッセージ	JSMJG070-W, JSMJG098-W, JSMJG104-S, JSMJG110-W, JSMJG116-W, JSMJG117-W, およびJSMJG118-Wを変更 JSMJG054-S, JSMJG096-W, JSMJG097-S, JSMJG099-S, JSMJG100-W, JSMJG106-S, JSMJG121-I, JSMJG122-W, JSMJG123-S, JSMJG124-W, JSMJG125-S, JSMJG126-W, JSMJG127-W, JSMJG128-W, JSMJG129-W, JSMJG130-W, およびJSMJG131-Wを追加	◆参照 → 15.9
4 3	115	付録Cの名称	付録C プログラム情報出力ドキュメントのCSV形式ファイル作成方法	付録C CSV形式ファイル出力機能
4 4	115	付図C.1 機能概要	DF-PROGRAMのプログラム情報出力機能を実行した際に作成された中間ファイルを入力としてCSV形式ファイル出力プログラムを実行させることにより、プログラム情報出力機能の各ドキュメントをCSV形式(カンマ区切)でファイル出力することが可能となる。 付図C.1 にプログラム情報出力ドキュメントのCSV形式ファイル作成のシステム構成図を示す。	プログラム一覧出力機能、プログラム構造図出力機能、プログラム情報出力機能、またはメンバ一覧出力機能を実行した際に作成される中間ファイルを入力としてCSV形式ファイル出力プログラムを実行させることにより、各ドキュメントをCSV形式(コンマ区切)でファイル出力することが可能となる。 付図C.1 にCSV形式ファイル出力のシステム構成図を示す。
4 5	115	付図C.1の名称	付図C.1 プログラム情報出力ドキュメントのCSV形式ファイル作成のシステム構成図	付図C.1 CSV形式ファイル出力のシステム構成図
4 6	115	付図C.1 CSV形式ファイル出力の入力	(記述追加)	機能により省略可の入力データセットとしてCOBOLソースライブラリを追加
4 7	117	付図C.2 実行時オプション一覧	{ PGSP PGFR PGAL }	{ LIST STRCT PGSP PGFR PGAL MLIST }

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
4 8	117	付C. 2. 1. 2. 1 CSV形式ファイル出力オプション ・情報オプション	情報オプションは、DF-PROGRAMプログラム情報出力機能の情報編集出力の情報オプションと同じものを指定する。	プログラム一覧、プログラム構造図、またはメンバー一覧の場合は、各ドキュメント出力機能のドキュメントキーワードと同じである。プログラム情報の場合は、プログラム情報出力機能のJOHOオプションと同じである。
4 9	117	付表C. 1 CSV形式ファイル出力の情報オプション	プログラム一覧、プログラム構造図、およびメンバー一覧のCSV形式ファイルを出力する情報オプションを追加 ◆参照 → 15. 1 0	
5 0	117	付C. 2. 1. 2. 1 CSV形式ファイル出力オプション ・SORTオプション	（記述追加）	プログラム構造図の場合、SORTオプションの指定は無効である。
5 1	118	付表C. 2 必要DD文一覧	DD名：JSMHG010 レコード長：204	DD名：JSMHG010 レコード長：（注）
			DD名：JSMHGCSV ブロック長：（注）	DD名：JSMHGCSV ブロック長：レコード長+ 4 以上
			（記述追加）	DD名：SOCLIB ファイル編成：PO, GEM レコード形式：F, FB/V, VB レコード長：80/255以下 ブロック長：レコード長×n/ レコード長+ 4 以上 装置：DASD
			DD名：JSMHG040 ファイル編成：PS レコード形式：F, FB レコード長：8 ブロック長：レコード長×n 装置：DASD	
5 2	118	付表C. 3 情報オプション別必要DD文内容一覧	DD名：JSMHG010を追加し、情報オプションごとのレコード長を表す表に変更 ◆参照 → 15. 1 1	
5 3	118	付C. 2. 1. 3 必要DD文	3) JSMHG010 DF-PROGRAMのプログラム情報出力機能の実行後の中間ファイルを指定する。	3) JSMHG010 プログラム一覧出力機能、プログラム構造図出力機能、プログラム情報出力機能、またはメンバー一覧出力機能を実行した際に作成される中間ファイルを指定する。
5 4	119	付C. 2. 1. 3 必要DD文	（記述追加）	8) SOCLIB プログラム一覧またはメンバー一覧のCSV形式ファイル出力の場合、COBOLソースライブラリを指定する。 9) JSMHG040 メンバー一覧出力機能を実行した際に作成される入口名ファイルを指定する。
5 5	119	付表C. 4 DASD容量見積り	情報オプションごとのレコード長に変更 ◆参照 → 15. 1 2	
5 6	120	付C. 2. 2. 2 CSV形式ファイルのレコード形式	付C. 2. 2. 2. 1 プログラム一覧のレコード形式 付C. 2. 2. 2. 2 プログラム構造図のレコード形式を追加 付C. 2. 2. 2. 6 メンバー一覧のレコード形式を追加 ◆参照 → 15. 1 3 プログラム情報のレコード形式の項番は、付C. 2. 2. 2. 3 ~付C. 2. 2. 2. 5に変更	

表15.1 適用マニュアルの正誤表（続き）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
5 7	125	付C. 2. 3. 2 CSV出力結果リスト	CSV出力結果リスト例の説明のうち①～③を変更 ◆参照 → 15. 1 4	
5 8	127	付図C. 18 CSV形式ファイル出力機能のジョブフロー	DF-PROGURAM プログラム情報出力機能	DF-PROGRAM
			（記述追加）	CSV形式ファイル出力機能の入力データセットとしてCOBOLソースライブラリ [SOCLIB] 入口名ファイル [JSMHG040] を追加
5 9	128 129	付C. 2. 5. 2 CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例	CSV形式ファイル出力機能を実行するのに必要なジョブ制御文について～	付C. 2. 5. 2. 1 プログラム情報出力機能 プログラム情報CSV形式ファイル出力機能を実行するために必要なジョブ制御文について～
			付図C. 19 CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例 (MSP)	付図C. 19 プログラム情報CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例 (MSP)
			付図C. 20 CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例 (XSP)	付図C. 20 プログラム情報CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例 (XSP)
6 0	128	付C. 2. 5. 2 CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例	付C. 2. 5. 2. 2 メンバー一覧出力機能を追加 ◆参照 → 15. 1 5	
6 1	133	付表D. 1 パラメタの指定内容	リターンコードの内容を変更 日付、時刻の出力形式の説明を追加 ◆参照 → 15. 1 6	
6 2	133	付録	付録E DF-JOBFLOWのジョブフロー出力との連携を追加 ◆参照 → 15. 1 7	



15.1 2.1 プログラム管理表出力機能 出力例

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

SIMPLIA/DF-PROGRAM V21L20                      日付 2016.06.30 時刻 17.01.51

\*\*\* プログラム管理表 \*\*\*

NO	モジュール名	プログラム名	ステップ数	サブスキーマ名	データセット名
1	JSMK00A0	JSMK0115 DB修正115	184 ( 258)		010016.PR02110.MANU.SOC

+ ファイル情報 +

< FD情報 >

DD名	ファイル名	レコード名	IO	編成
ANZTABL	CZOT-FILE 全中間ファイル	CP01-SITEIMEIGARA マスタ情報指定銘柄	0	PS
CHUFILE	MSG-CHUFILE メッセージ中間ファイル	SMSGREC 診断メッセージレコード	0	PS
TBLFILE	ZIKINA-FILE 全域名ファイル	CP99REC パラメタ解析定数領域	1	PS

< WORK情報 >

レコード名	コピー句名	レコード名
CPB3REC レコードTBL作成ワーク		CP01REC 復帰コード定数領域
CP65REC 編集内容エリア	CP01YYSH ヘッダ編集領域	CRNREC レコード名レコード
POPRM1 POパラメタ1		

< LINKAGE情報 >

レコード名	コピー句名	レコード長	レコード名
CP86REC 図形出カルーテン(制御)パラメタ		30	RTNCD-PRM 復帰コードPRM
SAKKINO-PRM 作成機能PRM	CP90REC 文字列解析パラメタ	2165	

+ 入口点情報 +

入口点名	入口種別	パラメタ
JSMK0115 DB修正115	一次	CP86REC 図形出カルーテン(制御)パラメタ      RTNCD-PRM 復帰コードPRM
JSMK0040 普通預金利率修正	二次	RTNCD-PRM 復帰コードPRM
JSMK0240 利率月別参照	二次	CP86REC 図形出カルーテン(制御)パラメタ

+ 副プログラム情報 +

図2.a プログラム管理表のテキスト形式ファイル出力例

15. 2 2.1 プログラム管理表出力機能 b) ファイル情報 1) FD情報 ⑥

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

FD情報を拡張出力する場合、DD名欄が“@”の行に副プログラムまで含めた入出力情報が出力される。プログラムおよび副プログラムのOPEN命令のモードにより、以下の値が出力される。

I : すべてINPUT指定である。

O : すべてOUTPUT指定およびEXTEND指定である。

IO : I-O指定がある。または、INPUT指定およびOUTPUT指定 (EXTEND指定) がある。

空白 : OPEN命令のモードが取得できない。

FD情報を拡張出力した場合の例を図2. bに示す。

＜ FD情報 ＞							
DD名	ファイル名	レコード名	IO	編成	形式	コピー句名	レコード長
ANZTABL @	CZOT-FILE 全中間ファイル	CP01-SITEIMEIGARA マスタ情報指定銘柄	0 IO	PS		CP01YMCK 顧客予約状況マスタ	205
CHUFILE @	MSG-CHUFILE メッセージ中間ファイル	SMSGREC 診断メッセージレコード	0 O	PS			310
TBLFILE @	ZIKINA-FILE 全域名ファイル	CP99REC パラメタ解析定数領域	I I	PS	F		102
SUBFILE @	(注)		I				

注) 副プログラムのみにあるDD名の場合、DD名の右側は出力されない。

図2. b FD情報を拡張出力した場合の例

### 15.3 第2章 機能

#### 【旧記述】

(記述追加)

#### 【新記述】

#### 2.5 プログラム入出力情報ファイル出力機能

プログラムの入出力情報 (DD名, IO情報) として, 副プログラムまで含めた入出力情報を集約して順編成データセット (プログラム入出力情報ファイル) に出力する.

プログラム入出力情報ファイルは, プログラム管理表出力機能のFD情報拡張で使用する. また, SIMPLIA/DF-JOBFLOWのジョブフロー出力機能でも使用できる. SIMPLIA/DF-JOBFLOWのジョブフロー出力との連携については付録Eを参照されたい.

実行時オプションのドキュメントキーワードには 'PIOF' を指定する.

- 対象のプログラムは, @MOPT制御文, @DOPT制御文, または@COMPOUND制御文で指定する.
- 副プログラム名とそのメンバ名が異なる場合, 副プログラム名の検索対象メンバを@SOPT制御文で指定することができる.

プログラム入出力情報ファイルのレコードフォーマットを図2. cに, 出力例を図2. d に示し説明する.

①プログラム名	② DD名	③IO情報	空白
8バイト	10バイト	1バイト	11バイト

図2. c プログラム入出力情報ファイルのレコードフォーマット

①	②	③
TESTPRO1	INDD	1
TESTPRO1	OUTDD	2

図2. d プログラム入出力情報ファイル出力例

- ① プログラム名が出力される.
- ② プログラムまたは副プログラムで定義されているDD名が出力される.  
ファイル識別名が引用符で囲まれている場合, 引用符付きで出力される.
- ③ DD名に対するファイルのIO情報が出力される.

プログラムおよび副プログラムのOPEN命令のモードにより, 以下の値が出力される.

- 1 : 入力  
すべてINPUT指定である.
  - 2 : 出力  
すべてOUTPUT指定およびEXTEND指定である.
  - 3 : 入出力  
I-O指定がある. または, INPUT指定およびOUTPUT指定 (EXTEND指定) がある.
- 空白: 不明  
OPEN命令のモードが取得できない.

## 2.6 メンバー一覧出力機能

COBOLソースライブラリに格納されているメンバ名にプログラムID, 二次入口点名, 更新レベル, 作成日付, および更新日付の情報を付加したCSV形式の一覧表を出力する.

ここでは, CSV形式ファイル作成時に必要な2つのデータセット (メンバー一覧作成ファイルおよび入口名ファイル) を作成する. CSV形式ファイルの出力方法については, 付録Cを参照されたい.

実行時オプションのドキュメントキーワードには 'MLIST' を指定する.

対象のメンバは, @MOPT制御文, @DOPT制御文, または@COMPOUND制御文で指定する.

### 1 5 . 4 3.1.2.1 プログラム管理表出力機能オプション

#### 【旧記述】

(記述追加)

#### 【新記述】

{  
SUBIO  
NOSUBIO  
}

FD情報の拡張出力として, 副プログラムまで含めたIO情報をDD名ごとに集約して出力するか否かのオプションである. 出力する場合は 'SUBIO' を指定し, 出力しない場合は 'NOSUBIO' を指定する.

当オプションを省略した場合は, 'NOSUBIO' が指定されたものとみなす.

なお, 'SUBIO' を指定する場合は, プログラム入出力情報ファイルが必要なため, プログラム入出力情報ファイル出力機能によりあらかじめ作成しておくこと.

1 5 . 5 3.1.2 実行時オプション

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

3.1.2.5 プログラム入出力情報ファイル出力機能オプション

プログラム入出力情報ファイル出力機能を実行するための実行時オプションを図3. aに示し説明する.

$$(PIOF [, LEVEL = \left\{ \begin{matrix} 8 \\ n \end{matrix} \right\} ] )$$

図3. a プログラム入出力情報ファイル出力機能オプション

PIOF

プログラム入出力情報ファイル出力機能を実行するためには、ドキュメントキーワード 'PIOF' を指定する。この実行時オプションは括弧内の先頭に指定しなければならない。

$$LEVEL = \left\{ \begin{matrix} 8 \\ n \end{matrix} \right\}$$

LEVELオプションの機能および指定方法はプログラム構造図出力機能と同じである。

3.1.2.6 メンバー一覧出力機能オプション

メンバー一覧出力機能を実行するための実行時オプションを図3. bに示し説明する。

$$(MLIST)$$

図3. b メンバー一覧出力機能オプション

MLIST

メンバー一覧出力機能を実行するためには、ドキュメントキーワード 'MLIST' を指定する。

1 5 . 6 表3.7 必要DD文一覧

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

DD名	ファイル編成	レコード形式	レコード長	ブロック長	装置
JSMHGP10	PS	F, FB	30	レコード長×n	DASD
JSMHGDTL	PS	V, VB	228	レコード長+4 以上	DASD
JSMHG040	PS	F, FB	8	レコード長×n	DASD

### 1 5 . 7 3.3 使用例

#### 【旧記述】

(記述追加)

#### 【新記述】

##### 3.3.5 プログラム入出力情報ファイル出力機能の使用例

プログラム入出力情報ファイル出力機能の使用例として、次の内容を述べる。

- － プログラム入出力情報ファイル出力機能のジョブフロー
- － プログラム入出力情報ファイル出力機能のジョブ制御文例

##### 3.3.5.1 プログラム入出力情報ファイル出力機能のジョブフロー

プログラム入出力情報ファイル出力機能を使用するために必要な入出力データセットと各DD名を図3. c に示す。

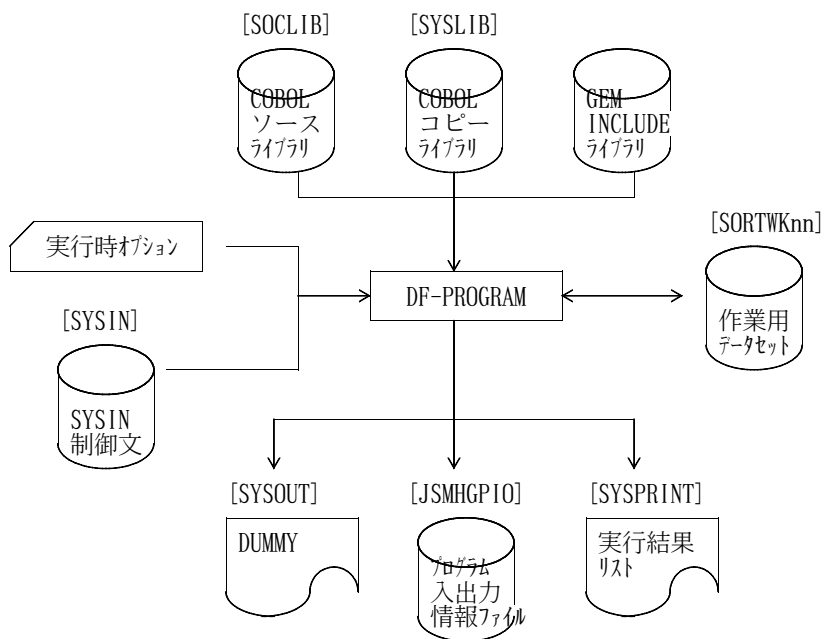


図3. c プログラム入出力情報ファイル出力機能のジョブフロー

### 3.3.5.2 プログラム入出力情報ファイル出力機能のジョブ制御文例

プログラム入出力情報ファイル出力機能のMSPのジョブ制御文例を図3.dに、XSPのジョブ制御文例を図3.eに示す。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR
//STEP1 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM='(PIOF), CPY'
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER='TESTPRO1'
@SOPT SUBMEMBER=ALL
/*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. SOC, DISP=SHR
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. COPY, DISP=SHR
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (100, 100))
//SYSOUT DD DUMMY
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMHGP10 DD DSN=USER01. P10. FILE, UNIT=SYSDA, DISP=(, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (50, 50), RLSE),
// DCB=BLKSIZE=6000
//
```

図3.d プログラム入出力情報ファイル出力機能のジョブ制御文例 (MSP)

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
¥ JOB GA
¥ JOB USER001A, LIST=(T, JD), PSW=XXXX
¥STEP1 EX JSMJG010, RSIZE=2048
¥ PARA (PIOF), CPY
¥ FD STEPCAT=DA, FILE=UCAT00
¥ FD PRGLIB=DA, FILE=USER001. PROGRAM. LOAD
¥ FD CF=DA, FILE=C. ALIB
¥ FD CF=DA, FILE=SYS. ADJUST. LINKLIB
¥ FD UN=*
@MOPT MEMBER='TESTPRO1'
@SOPT SUBMEMBER=ALL
¥/
¥ FD SOCLIB=DA, FILE=USER001. PROGRAM. SOC
¥ FD SYSLIB=DA, FILE=USER001. PROGRAM. COPY
¥ FD SORTWK01=DA, VOL=WORK, TRK=(100, 100)
¥ FD SORTWK02=DA, VOL=WORK, TRK=(100, 100)
¥ FD SORTWK03=DA, VOL=WORK, TRK=(100, 100)
¥ FD SYSOUT=DUMMY
¥ FD SYSPRINT=DA, VOL=WORK, TRK=(100, 100), SOUT=T
¥ FD JSMHGP10=DA, FILE=USER001. P10. FILE, VOL=DASD01,
DISP=CAT, TRK=(50, 50, RLSE), FCB=BLKSIZE=6000
¥ JEND
¥ JGEND
```

図3.e プログラム入出力情報ファイル出力機能のジョブ制御文例 (XSP)

### 3.3.6 メンバー一覧出力機能の使用例

メンバー一覧出力機能の使用例として、次の内容を述べる。

- メンバー一覧出力機能のジョブフロー
- メンバー一覧出力機能のジョブ制御文例

### 3.3.6.1 メンバー一覧出力機能のジョブフロー

メンバー一覧出力機能を使用するために必要な入出力データセットと各DD名を図3. fに示す.

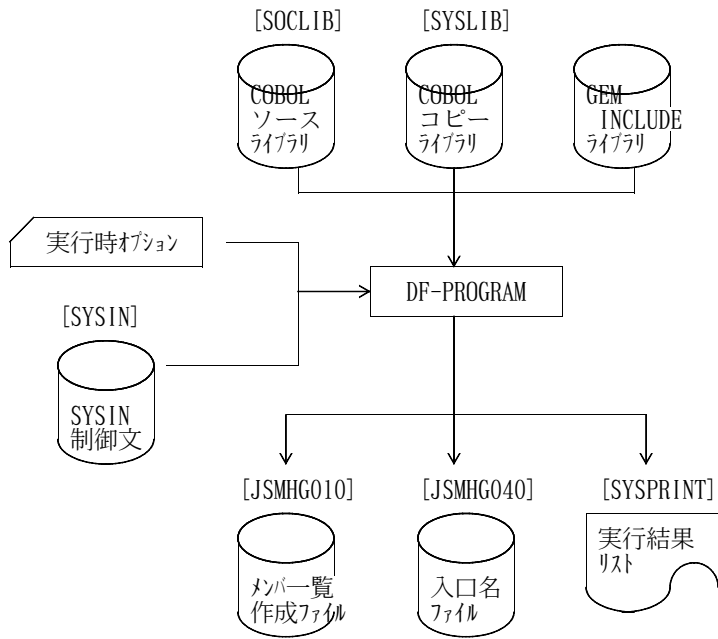


図3. f メンバー一覧出力機能のジョブフロー



### 3.3.6.2 メンバー一覧出力機能のジョブ制御文例

メンバー一覧出力機能のMSPのジョブ制御文例を図3.g に、XSPのジョブ制御文例を図3.h に示す。

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//USER01A JOB PROGRAM, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOB LIB DD DSN=USER01. PROGRAM. LOAD, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1. C85. COBLIB, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=UCAT00, DISP=SHR
//STEP1 EXEC PGM=JSMJG010, REGION=2048K,
// PARM='(MLIST), CPY'
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER=ALL
/*
//SOCLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. SOC, DISP=SHR
//SYSLIB DD DSN=USER01. PROGRAM. COPY, DISP=SHR
//JSMHG010 DD DSN=USER01. G010. FILE, UNIT=SYSDA, DISP=(, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (100, 100)), DCB=BLKSIZE=11856
//JSMHG040 DD DSN=USER01. G040. FILE, UNIT=SYSDA, DISP=(, CATLG),
// VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (100, 100)), DCB=BLKSIZE=11880
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//
```

図3.g メンバー一覧出力機能のジョブ制御文例 (MSP)

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
¥ JOBG GA
¥ JOB USER001A, LIST=(T, JD), PSW=XXXX
¥STEP1 EX JSMJG010, RSIZE=2048
¥ PARA (MLIST), CPY
¥ FD STEPCAT=DA, FILE=UCAT00
¥ FD PRGLIB=DA, FILE=USER001. PROGRAM. LOAD
¥ FD CF=DA, FILE=C. ALIB
¥ FD CF=DA, FILE=SYS. ADJUST. LINKLIB
¥ FD UIN=*
@MOPT MEMBER=ALL
¥/
¥ FD SOCLIB=DA, FILE=USER001. PROGRAM. SOC
¥ FD SYSLIB=DA, FILE=USER001. PROGRAM. COPY
¥ FD JSMHG010=DA, FILE=USER001. G010. FILE, VOL=DASD01,
DISP=CAT, TRK=(100, 100), FCB=BLKSIZE=11856
¥ FD JSMHG040=DA, FILE=USER001. G040. FILE, VOL=DASD01,
DISP=CAT, TRK=(100, 100), FCB=BLKSIZE=11880
¥ FD SYSPRINT=DA, VOL=WORK, TRK=(100, 100), SOUT=T
¥ JEND
¥ JGEND
```

図3.h メンバー一覧出力機能のジョブ制御文例 (XSP)

1 5 . 8 表4.5 DASD容量見積り

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

データセット 名称	DD名	データセ ット編成	レコー ド形式	レコード長 (バイト長)	ブロック長 (バイト長)	トラック数
プログラム入出 力情報ファイル	JSMHGPI0	PS	F,FB	30	レコード長×n	$\frac{1 \text{プログラム当たりの平均DD名数} \times (1 + \text{指定階層までの平均副プログラム数}) \times \text{処理対象メンバ数}}{\left[ \frac{47476 \text{(注1)}}{\text{ブロック長} + 512} \right]} \times n$
入口名ファイル	JSMHG040	PS	F,FB	8	レコード長×n	$\frac{(1 + 1 \text{プログラム当たりの平均二次入口点数}) \times \text{処理対象メンバ数}}{\left[ \frac{47476 \text{(注1)}}{\text{ブロック長} + 512} \right]} \times n$

n : ブロック化因数

## 15.9 第5章 診断メッセージ

### 【旧記述】

(記述追加)

### 【新記述】

JSMJG054-S

指定されたファイル名のファイル編成又はレコード形式が正しくありません。DD (FD) 名=@1

[メッセージの意味]

指定されたファイル名のファイル編成またはレコード形式が本ツールで使用可能な形式ではない。

@1はエラーとなったファイルのDD (FD) 名

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

DD文を正しく指定し再度実行する。

### 【旧記述】

JSMJG070-W

置換命令にDF-PROGRAMで対応できないものがあります。処理メンバ名, コピー句名=@1, @2

### 【新記述】

JSMJG070-W

置換命令にDF-PROGRAMで対応できないものがあります。

処理メンバ名, コピー句名=@1, @2

### 【旧記述】

(記述追加)

### 【新記述】

JSMJG096-W

STRCTオプションとSORTオプションは同時に指定できません。SORTオプションを無視します。

[メッセージの意味]

CSV出力処理においてSTRCTオプションとSORTオプションは同時に指定できない。

[システムの処理]

SORTオプションを無視して処理を続行する。

[利用者の処置]

実行結果のままとするか, 実行時オプションを正しく指定し, 再度実行する。

### 【旧記述】

(記述追加)

### 【新記述】

JSMJG097-S

実行時オプションのLINEとFILEは同時に指定できません。

[メッセージの意味]

DETAILオプション指定において, 排他関係にあるLINEとFILEは同時に指定できない。

[システムの処理]

処理を中止する.

[利用者の処置]

DETAILオプションに関するオプションを正しく指定し、再度実行する.

**【旧記述】**

JSMJG098-W

GEMライブラリでモジュール位置付けに失敗しました. 復帰コード, モジュール名 =@1,@2

**【新記述】**

JSMJG098-W

GEMライブラリでモジュール位置付けに失敗しました.

復帰コード, モジュール名 =@1,@2

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG099-S

FILEオプションに誤りがあります.

[メッセージの意味]

実行時オプションFILEが多重指定されている.

[システムの処理]

処理を中止する.

[利用者の処置]

実行時オプションFILEを1つだけ指定し、再度実行する.

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG100-W

PIOFオプションと日本語変換出力に関するオプションは同時に指定できません.

[メッセージの意味]

PIOFオプションと日本語変換出力に関するオプションは同時に指定できない.

[システムの処理]

日本語変換出力に関するオプションを無視して処理を続行する.

[利用者の処置]

実行結果のままとするか、実行時オプションを正しく指定し、再度実行する.

**【旧記述】**

JSMJG104-S

GEMライブラリの読み込みに失敗しました. 復帰コード, モジュール名 =@1,@2

**【新記述】**

JSMJG104-S

GEMライブラリの読み込みに失敗しました。

復帰コード, モジュール名 =@1, @2

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG106-S

PIOFオプションに関する個別オプションに誤りがあります。

[メッセージの意味]

プログラム入出力情報ファイル出力機能オプションの指定に誤りがある。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

実行時オプションを正しく指定し, 再度実行する。

**【旧記述】**

JSMJG110-W

コピー句の8階層中にコピー句が出現しました。メンバ名, コピー句名=@1, @2

**【新記述】**

JSMJG110-W

コピー句の8階層中にコピー句が出現しました。

メンバ名, コピー句名=@1, @2

**【旧記述】**

JSMJG116-W

コピー句が使用(更新)中の為処理ができません。メンバ名, コピー句名=@1, @2

**【新記述】**

JSMJG116-W

コピー句が使用(更新)中の為処理ができません。

メンバ名, コピー句名=@1, @2

**【旧記述】**

JSMJG117-W

INCLUDE制御文に指定されているモジュールが使用(更新)中の為処理できません。処理メンバ名=@1

**【新記述】**

JSMJG117-W

INCLUDE制御文に指定されているモジュールが使用(更新)中の為処理できません。

処理メンバ名=@1

**【旧記述】**

JSMJG118-W

INCLUDE制御文に指定されているモジュールが使用（更新）中の為処理できません。メンバ名，コピー句名=@1,@2

[メッセージの意味]

INCLUDE 制御文に指定されているモジュールが他で使用されている。@1は処理メンバ名，@2は使用中コピー句名。

**【新記述】**

JSMJG118-W

INCLUDE制御文に指定されているモジュールが使用（更新）中の為処理できません。

メンバ名，コピー句名=@1,@2

[メッセージの意味]

INCLUDE 制御文に指定されているモジュールが他で使用されている。@1は処理メンバ名，@2は使用中インクルードモジュールを指定しているコピー句名。

**【旧記述】**

（記述追加）

**【新記述】**

JSMJG121-I

出力情報がありません。メンバ名=@1

[メッセージの意味]

プログラム入出力情報ファイル出力機能またはプログラム情報出力機能において，出力する情報がない。@1は出力情報のないメンバ名。

[システムの処理]

処理を続行する。

[利用者の処置]

なし

**【旧記述】**

（記述追加）

**【新記述】**

JSMJG122-W

出力情報が1件もありませんでした。

[メッセージの意味]

プログラム入出力情報ファイルに出力する情報が1件もない。

[システムの処理]

処理を続行する。

[利用者の処置]

実行結果のままとするか，対象メンバを変更して再度実行する。

**【旧記述】**

（記述追加）

**【新記述】**

JSMJG123-S

SUBIOまたはNOSUBIOオプションに誤りがあります。

[メッセージの意味]

実行時オプションSUBIOまたはNOSUBIOが多重指定されている。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

実行時オプションSUBIOまたはNOSUBIOのどちらかを指定し再度実行する。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG124-W

プログラム入出力情報ファイルのレコードが1件もありません。

[メッセージの意味]

プログラム入出力情報ファイルのレコードが1件もない。NOSUBIO指定とみなして処理を続行する。

[システムの処理]

処理を続行する。

[利用者の処置]

プログラム入出力情報ファイルが正しいか確認し、正しくなければ作成し直して再度実行する。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG125-S

プログラム入出力情報ファイルの入出力情報が正しくありません。

[メッセージの意味]

プログラム入出力情報ファイルの入出力情報が正しくない。または、プログラムに存在するDD名がプログラム入出力情報ファイルに存在しない。

[システムの処理]

処理を中止する。

[利用者の処置]

プログラム入出力情報ファイルが正しいか確認し、正しくなければ作成し直して再度実行する。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG126-W

COPY命令のOF指定およびIN指定は無視します。処理メンバ名=@1

[メッセージの意味]

COPY命令またはINCLUDE命令にOF指定またはIN指定が存在している。@1はエラーが発生したメンバ名。

[システムの処理]

COPY命令およびINCLUDE命令のOF指定およびIN指定を無視して処理を続行する。

[利用者の処置]

該当箇所を確認する。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG127-W

REPORT SECTIONおよびCONSTANT SECTIONは無視します。

処理メンバ名=@1

[メッセージの意味]

REPORT SECTIONまたはCONSTANT SECTIONが存在している。@1は処理メンバ名。

[システムの処理]

REPORT SECTIONおよびCONSTANT SECTIONを無視して処理を続行する。

[利用者の処置]

該当箇所を確認する。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG128-W

EXTERNAL句は無視します。処理メンバ名=@1

[メッセージの意味]

EXTERNAL句が存在している。@1は処理メンバ名。

[システムの処理]

EXTERNAL句を無視して処理を続行する。

[利用者の処置]

該当箇所を確認する。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG129-W

ソースプログラムのメンバ名とプログラムIDが異なっています。処理メンバ名=@1

[メッセージの意味]

メンバ名とプログラムIDが異なっている。@1はエラーが発生したメンバ名。

[システムの処理]

処理メンバ名の構造図は出力しない。

[利用者の処置]

該当プログラムを確認する。



**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG130-W

MLISTオプションと日本語変換出力に関するオプションは同時に指定できません。

[メッセージの意味]

MLISTオプションと日本語変換出力に関するオプションは同時に指定できない。

[システムの処理]

日本語変換出力に関するオプションを無視して処理を続行する。

[利用者の処置]

実行結果のままとするか、実行時オプションを正しく指定し、再度実行する。

**【旧記述】**

(記述追加)

**【新記述】**

JSMJG131-W

プログラムIDおよび二次入口点名が一意ではありません。

[メッセージの意味]

指定したメンバにおいて、プログラムIDまたは二次入口点名が重複している。

[システムの処理]

重複を無視して処理を続行する。

[利用者の処置]

実行結果のままとするか、プログラムIDおよび二次入口点名が重複しないように指定し、再度実行する。

15.10 付表C.1 CSV 形式ファイル出力の情報オプション

【旧記述】

情報編集出力名 (出力内容)	情報 オプション	出力範囲
プログラム情報編集	PGSP	対副プログラム
	PGFR	対ファイル, レコード, コピー句
	PGAL	対副プログラム, ファイル, レコード, コピー句

【新記述】

情報編集名	情報オプション	出力範囲
プログラム一覧	LIST	
プログラム構造図	STRCT	
プログラム情報編集	PGSP	対副プログラム
	PGFR	対ファイル, レコード, コピー句
	PGAL	対副プログラム, ファイル, レコード, コピー句
メンバー一覧	MLIST	

15. 1.1 付表C.3 情報オプション別必要DD文内容一覧

【旧記述】

情報オプション	ファイル編成	レコード形式	レコード長	ブロック長	装置
PGSP	PS	V, VB	77	レコード長+4以上	DASD
PGFR	PS	V, VB	147	レコード長+4以上	DASD
PGAL	PS	V, VB	212	レコード長+4以上	DASD

【新記述】

DD名	情報オプション	レコード長
JSMHG010	LIST	110
	STRCT	609
	PGSP	204
	PGFR	
	PGAL	
	MLIST	48
JSMHGCSV	LIST	58
	STRCT	646
	PGSP	77
	PGFR	147
	PGAL	212
	MLIST	84

15. 1.2 付表C.4 DASD容量見積り

【旧記述】

レコード長 (バイト長)
212 (MAX)

【新記述】

レコード長 (バイト長)
(注1)

注1) “付表C.3 情報オプション別必要DD文内容一覧”を参照されたい。

15. 13 付C.2.2.2 CSV形式ファイルのレコード形式

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

付C.2.2.2.1 プログラム一覧のレコード形式

情報オプション“LIST”を指定した場合のレコード形式を示す。

1) タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図C.aに示す。

NO, プログラムID, レベル, 作成日付, 更新日付
------------------------------

付図C.a プログラム一覧のタイトルレコード

2) ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図C.bに示し説明する。

① NO	② 区切り	③ プログラムID	④ 区切り	⑤ レベル	⑥ 区切り
1～4バイト	1バイト	1～8バイト	1バイト	1～6バイト	1バイト
⑦ 作成日付	⑧ 区切り	⑨ 更新日付			
0～10バイト	1バイト	0～10バイト			

付図C.b プログラム一覧のドキュメントレコード

- ① 出力順に連番が出力される。
- ② “,” が出力される。
- ③ プログラム名が出力される。
- ④ “,” が出力される。
- ⑤ プログラムがGEMの場合は最新レベル(1～255)が出力され、区分編成の場合は版数(V99L99)が出力される。
- ⑥ “,” が出力される。
- ⑦ COBOLソースライブラリに作成された日付(西暦年4けた/月/日)が出力される。ただし、対象プログラムがGEMの場合または区分編成でPFDを使用し更新履歴を保持している場合に出力される。
- ⑧ “,” が出力される。
- ⑨ プログラムの更新日付(西暦年4けた/月/日)が出力される。ただし、対象プログラムがGEMの場合または区分編成でPFDを使用し更新履歴を保持している場合に出力される。更新されていない場合は出力されない。

CSV形式ファイルの出力例を付図C. cに示す.

1	2	3	4	5	6	7	8
NO, プログラムID, レベル, 作成日付, 更新日付							
1, TESTPRO1, V01L14, 1988/05/26, 1989/07/28							
2, TESTPRO3, V01L02, 1988/05/26, 1988/07/01							
3, TESTPRO4, V01L01, 1988/05/26, 1988/07/01							
4, TESTPRO5, V01L01, 1988/05/26, 1988/07/01							
5, TESTPRO6, V01L03, 1988/05/26, 1988/07/01							

付図C. c プログラム一覧のCSV形式ファイル出力例

付C. 2. 2. 2. 2 プログラム構造図のレコード形式

情報オプション “STRCT” を指定した場合のレコード形式を示す.

1) タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図C. dに示す.

主プログラム名, 主種別, 主抑制, 副プログラム名 1 階層, 副二次入口点名 1 階層,
副種別 1 階層, 副抑制 1 階層, ..., 副プログラム名 8 階層, 副二次入口点名 8 階層,
副種別 8 階層, 副抑制 8 階層

付図C. d プログラム構造図のタイトルレコード

2) ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図C. eに示し説明する.

① 主プログラム名	② 区切り	③ 主種別	④ 区切り	⑤ 主抑制	⑥ 区切り
1 ~ 8 バイト	1 バイト	0 バイト	1 バイト	0 バイト	1 バイト
⑦ 副プログラム名 1 階層	⑧ 区切り	⑨ 副二次入口点名 1 階層	⑩ 区切り		
0 ~ 62 バイト	1 バイト	0 ~ 8 バイト	1 バイト		
⑪ 副種別 1 階層	⑫ 区切り	⑬ 副抑制 1 階層	⑭ 区切り	...	
0 ~ 1 バイト	1 バイト	0 ~ 1 バイト	1 バイト	...	
⑦ 副プログラム名 8 階層	⑧ 区切り	⑨ 副二次入口点名 8 階層	⑩ 区切り		
0 ~ 62 バイト	1 バイト	0 ~ 8 バイト	1 バイト		
⑪ 副種別 8 階層	⑫ 区切り	⑬ 副抑制 8 階層			
0 ~ 1 バイト	1 バイト	0 ~ 1 バイト			

付図C. e プログラム構造図のドキュメントレコード

- ① SYSIN制御文で指定したメンバのプログラム名が出力される.
- ② “,” が出力される.
- ③ 出力されない.

- ④ “,” が出力される.
- ⑤ 出力されない.
- ⑥ “,” が出力される.
- ⑦ 副プログラムのプログラム名または一意名が出力される.
- ⑧ “,” が出力される.
- ⑨ 二次入口点と呼ばれている場合, 二次入口点名が出力される.
- ⑩ “,” が出力される.
- ⑪ 副プログラムの種別が出力される.
  - “E” : 存在しない場合
  - “@” : 内部プログラムの場合
  - “#” : 二次入口点名の場合
  - “I” : 一意名の場合
- ⑫ “,” が出力される.
- ⑬ プログラム構造図出力機能のLEVELオプションで指定した階層でプログラムの呼出しがある場合, “L” が出力される.
- ⑭ “,” が出力される.

CSV形式ファイルの出力例を付図C. fに示す.

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----+-----8-----
主プログラム名,主種別,主抑制,副プログラム名 1階層,副二次入口点名 1階層,副種別 1階層,副抑制 1階層,副プログラム名 2階層,副二次入口点名 2階層,副種別 2階層,副抑制 2階層,
副プログラム名 3階層,副二次入口点名 3階層,副種別 3階層,副抑制 3階層,副プログラム名 4階層,副二次入口点名 4階層,副種別 4階層,副抑制 4階層,副プログラム名 5階層,副
二次入口点名 5階層,副種別 5階層,副抑制 5階層,副プログラム名 6階層,副二次入口点名 6階層,副種別 6階層,副抑制 6階層,副プログラム名 7階層,副二次入口点名 7階層,副種別 7
階層,副抑制 7階層,副プログラム名 8階層,副二次入口点名 8階層,副種別 8階層,副抑制 8
階層↓
MAIN0100,,SUBS0100,,SUBS0110,,SUBS0120,,SUBS0130,,SUBS0140,,SUBS0150,,
,SUBS0160,,SUBS0170,,L↓
MAIN0100,,SUBS0100,,SUBS0110,,SUBS0120,,SUBS0130,,SUBS0140,,SUBS0150,,
,SUBS0160,,SUBS0171,,
↓
MAIN0100,,SUBS0100,,SUBS0110,,SUBS0120,,SUBS0130,,SUBS0140,,SUBS0151,,
,SUBS0180,,SUBS0190,,
↓
MAIN0100,,SUBS0200,,SUBS0210,,SUBS0220,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,↓
MAIN0100,,SUBS0200,,SUBS0220,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,↓
MAIN0100,,SUBS0200,SUBS0201,#,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,↓
MAIN0100,,SUBS0200,SUBS0202,#,SUBS0220,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,↓
MAIN0100,,SUBS0300,,SUBS0310,@,SUBS0220,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,↓
MAIN0100,,SUBS0300,,SUBS0320,@,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,↓
MAIN0100,,SUBS0220,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,↓
MAIN0100,,SNAME,,I,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,↓
MAIN0100,,SUBS0600,,E,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,↓ (注)

```

注) “↓” はレコードの終わり (改行) を示す.

付図C. f プログラム構造図のCSV形式ファイル出力例

付C.2.2.2.6 メンバ一覧のレコード形式

情報オプション“MLIST”を指定した場合のレコード形式を示す。

1) タイトルレコード

タイトルレコードの出力内容を付図C.gに示す。

NO,メンバ名,プログラムID,二次入口点名,レベル,作成日付,更新日付
--------------------------------------

付図C.g メンバ一覧のタイトルレコード

2) ドキュメントレコード

ドキュメントレコードの出力内容を付図C.hに示し説明する。

① NO	② 区切り	③ メンバ名	④ 区切り	⑤ プログラムID	⑥ 区切り
1～4バイト	1バイト	1～8バイト	1バイト	1～8バイト	1バイト
⑦ 二次入口点名	⑧ 区切り	⑨ レベル	⑩ 区切り	⑪ 作成日付	⑫ 区切り
1～8バイト	1バイト	1～6バイト	1バイト	0～10バイト	1バイト
⑬ 更新日付					
0～10バイト					

付図C.h メンバ一覧のドキュメントレコード

- ① 出力順に連番が出力される。
- ② “,” が出力される。
- ③ SYSIN制御文で指定したメンバ名が出力される。
- ④ “,” が出力される。
- ⑤ プログラム名が出力される。
- ⑥ “,” が出力される。
- ⑦ 二次入口点名が出力される。
- ⑧ “,” が出力される。
- ⑨ プログラムがGEMの場合は最新レベル（1～255）が出力され、区分編成の場合は版数（V99L99）が出力される。
- ⑩ “,” が出力される。
- ⑪ COBOLソースライブラリに作成された日付（西暦年4けた/月/日）が出力される。ただし、対象プログラムがGEMの場合または区分編成でPFDを使用し更新履歴を保持している場合に出力される。
- ⑫ “,” が出力される。
- ⑬ プログラムの更新日付（西暦年4けた/月/日）が出力される。ただし、対象プログラムがGEMの場合または区分編成でPFDを使用し更新履歴を保持している場合に出力される。更新されていない場合は出力されない。

CSV形式ファイルの出力例を付図C. iに示す。

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----
NO, メンバ名, プログラム I D, 二次入口点名, レベル, 作成日付, 更新日付
1, MAINP010, MAINP010, ENTO10, V01L05, 2017/02/15, 2017/04/11
2, MAINP010, MAINP010, ENTO11, V01L05, 2017/02/15, 2017/04/11
3, MAINP020, MAINP021, , V01L00, 2017/03/01,
4, MAINP030, MAINP030, , V01L06, 2017/03/01, 2017/04/27

付図C. i メンバー一覧のCSV形式ファイル出力例

#### 15. 14 付C. 2. 3. 2 CSV出力結果リスト

##### 【旧記述】

- ① プログラム情報出力情報名称が出力される。
- ② プログラム情報出力情報の出力範囲が出力される。
- ③ プログラム情報出力機能の検索元（プログラム）の入力項目数が出力される。

##### 【新記述】

- ① “プログラム一覧”，“プログラム構造図”，“プログラム情報編集”，または“メンバー一覧”が出力される。
- ② プログラム情報編集の場合，出力範囲が出力される。
- ③ プログラム一覧またはプログラム情報編集の場合，出力対象のプログラム数が出力される。  
プログラム構造図の場合，起点となるプログラムが出力されるレコードの件数が出力される。  
メンバー一覧の場合，出力対象の各プログラム件数の合計が出力される。各プログラム件数の数え方は以下のとおり。
  - － 二次入口点が存在しない場合，1件とする。
  - － 二次入口点が存在する場合，二次入口点の数を件数とする。



15. 15 付C.2.5.2 CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例

【旧記述】

(記述追加)

【新記述】

付C.2.5.2.2 メンバー一覧出力機能

メンバー一覧CSV形式ファイル出力機能を実行するために必要なジョブ制御文について、MSPのジョブ制御文例を付図C.21に、XSPのジョブ制御文例を付図C.22に示す。

メンバー一覧出力機能の各指定内容の詳細については“3.1 ジョブ制御文”を参照されたい。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//SF17CSV JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=SF.PROGRAM.LOAD,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.C85.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=SF1USR,DISP=SHR
//*
/*** メンバー一覧出力 ***
/**
//PROGRAM EXEC PGM=JSMJG010,REGION=2048K,
// PARM='(MLIST),CPY'
//SYSIN DD *
@MOPT MEMBER=ALL
/*
//SOCLIB DD DSN=SF.MASTER.SOCLIB,DISP=SHR
//SYSLIB DD DSN=SF.MASTER.CPYLIB,DISP=SHR
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(100,100)),DCB=BLKSIZE=11856
//JSMHG040 DD DSN=&&JSMHG040,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,PASS),
// SPACE=(TRK,(100,100)),DCB=BLKSIZE=11880
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
/**
/*** CSV形式ファイル出力 ***
/**
//CSVPUT EXEC PGM=JSMJGCSV,REGION=1024K,
// PARM='MLIST, SORT, TITLE'
//SOCLIB DD DSN=SF.MASTER.SOCLIB,DISP=SHR
//JSMHG010 DD DSN=&&JSMHG010,DISP=(OLD,DELETE)
//JSMHG040 DD DSN=&&JSMHG040,DISP=(OLD,DELETE)
//JSMHGCSV DD DSN=SF.MLIST.CSV,UNIT=SYSDA,DISP=(NEW,CATLG),
// VOL=SER=USER01,SPACE=(TRK,(50,50),RLSE),
// DCB=BLKSIZE=11848
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(TRK,(100,100))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSOUT DD DUMMY
//

```

付図C.21 メンバー一覧CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例(MSP)

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
¥ JOB SF17CSV, LIST=(N, JD), PSW=TEST
¥*
¥*** メンバー一覧出力 ***
¥*
¥PROGRAM EX JSMJG010, RSIZE=2048
¥ PARA (MLIST), CPY
¥ FD STEPCAT=DA, FILE=SF1USR
¥ FD PRGLIB=DA, FILE=SF.PROGRAM.LOAD
¥ FD CF=DA, FILE=C.ALIB
¥ FD CF=DA, FILE=SYS.ADJUST.LINKLIB
¥ FD UIN=*
@MOPT MEMBER=ALL
¥/
¥ FD SOCLIB=DA, FILE=SF.MASTER.SOCLIB
¥ FD SYSLIB=DA, FILE=SF.MASTER.CPYLIB
¥ FD JSMHG010=DA, VOL=WORK, TRK=(100, 100), DISP=CONT,
FCB=BLKSIZE=11856
¥ FD JSMHG040=DA, VOL=WORK, TRK=(100, 100), DISP=CONT,
FCB=BLKSIZE=11880
¥ FD SYSPRINT=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10), SOUT=N
¥*
¥*** C S V形式ファイル出力 ***
¥*
¥CSVPUT EX JSMJGCSV, RSIZE=1024
¥ PARA MLIST, SORT, TITLE
¥ FD STEPCAT=DA, FILE=UCAT00
¥ FD PRGLIB=DA, FILE=USER001.PROGRAM.LOAD
¥ FD CF=DA, FILE=C.ALIB
¥ FD CF=DA, FILE=SYS.ADJUST.LINKLIB
¥ FD SOCLIB=DA, FILE=SF.MASTER.SOCLIB
¥ FD JSMHG010=/, SW=JSMHG010
¥ FD JSMHG040=/, SW=JSMHG040
¥ FD JSMHGCSV=DA, FILE=USER001.MLIST.CSV, VOL=DASD01,
DISP=CAT, TRK=(50, 50, RLSE), FCB=BLKSIZE=11848
¥ FD SORTWK01=DA, VOL=WORK, TRK=(100, 100)
¥ FD SORTWK02=DA, VOL=WORK, TRK=(100, 100)
¥ FD SORTWK03=DA, VOL=WORK, TRK=(100, 100)
¥ FD SYSPRINT=DA, VOL=WORK, TRK=(10, 10), SOUT=N
¥ FD SYSOUT=DUMMY
¥ JEND

```

付図C. 22 メンバー一覧CSV形式ファイル出力機能のジョブ制御文例 (XSP)

15.16 付表D.1 パラメタの指定内容

【旧記述】

レベル	項目名	属性	内容
01	パラメタ		
05	修正日付	X(08)	DF-PROGRAMの修正日付
05	修正時刻	X(08)	DF-PROGRAMの修正時刻
05	実行日付	X(08)	JSMJPRF1の実行日付
05	実行時刻	X(08)	JSMJPRF1の実行時刻
05	リターンコード	9(02)	MSP:00, XSP:10 …正常 MSP:08, XSP:30 …依頼が汚染不当
05	FILLER	X(08)	

【新記述】

レベル	項目名	属性	内容
01	パラメタ		
05	修正日付	X(08)	DF-PROGRAMの修正日付 (yy. mm. dd)
05	修正時刻	X(08)	DF-PROGRAMの修正時刻 (hh. mm )
05	実行日付	X(08)	JSMJPRF1の実行日付 (yy. mm. dd)
05	実行時刻	X(08)	JSMJPRF1の実行時刻 (hh. mm. ss)
05	リターンコード	9(02)	00: 正常 03: 入力区分エラー 04: 処理形態エラー 05: ツール名エラー
05	FILLER	X(08)	

## 15.17 付録

### 【旧記述】

(記述追加)

### 【新記述】

付録E DF-JOBFLOWのジョブフロー出力との連携

プログラム入出力情報ファイルをSIMPLIA/DF-JOBFLOWで使用するによって、ジョブフロー図におけるデータセット入出力判定の精度を上げることができる。

SIMPLIA/DF-JOBFLOWのプログラム入出力情報の反映については“OSIV SIMPLIA/DF-JOBFLOW ソフトウェア説明書 適用マニュアルの正誤表”，プログラム入出力情報ファイルについては“2.5 プログラム入出力情報ファイル出力機能”を参照されたい。

## 16. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。（◆参照 → 4）

表16.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
1	<p>プログラム構造図出力およびプログラム入出力情報ファイル出力において、@MOPT制御文の単独指定で@SOPT制御文を指定した場合、存在しないメンバに対するメッセージが出力されない。</p> <p>（対処） “JSMJG102-W 解析対象メンバがありません。処理メンバ名=存在しないメンバ名”のメッセージが出力されるように修正した。</p>	JSMJG130 JSMJG670
2	<p>プログラム情報出力ドキュメントのCSV形式ファイル作成において、タイトル行を出力しないNOTITLE指定の場合、CSV出力結果リストのCSVレコード数が実際の件数より1件多い。</p> <p>（対処） CSV出力結果リストのCSVレコード数に正常な値が出力されるように修正した。</p>	JSMJGC10 JSMJGC20 JSMJGC30
3	<p>プログラム管理表出力のWORK情報および副プログラム情報において、前行の出力内容が再度出力される場合がある。</p> <p>（対処） 直前に出力された内容が再出力されないように修正した。</p>	JSMJG320
4	<p>プログラム一覧出力において、連結ソースライブラリの先頭メンバに“JSMJG102-W 解析対象メンバがありません。処理メンバ名=～”が出力される。</p> <p>また、処理対象のメンバ数が101以上ある場合、101件目（201件目、301件目…）のメンバに“JSMJG102-W 解析対象メンバがありません。処理メンバ名=～”が出力される。</p> <p>（対処） 連結ソースライブラリの先頭または101件目のメンバが処理対象となるように修正した。</p>	JSMJG130
5	<p>プログラム構造図出力において、@SOPT制御文を指定しない場合、副プログラムの-INCLUDE制御文が展開されない。</p> <p>（対処） -INCLUDE制御文が展開されるように修正した。</p>	JSMJG750
6	<p>プログラム管理表出力において、メンバ名が9文字以上の場合、レコード長は出力されないが正常終了の扱いとなる。</p> <p>（対処） “JSMJG055-W レコード長算出に失敗しました。復帰コード、処理メンバ名=～”のメッセージが出力されるように修正した。</p>	JSMJG660
7	<p>プログラム管理表出力において、LINKAGE SECTIONに77レベル項目がある場合、77レベル項目名はレコード名に出力されるが、レコード長が出力されない。</p> <p>（対処） LINKAGE SECTIONの77レベル項目に対してレコード長が出力されるように修正した。</p>	JSMJG660
8	<p>プログラム管理表のテキスト形式ファイル出力において、SUBIOオプションを指定した場合、テキスト形式ファイルの属性がチェックされない。</p> <p>（対処） SUBIOオプション指定時にテキスト形式ファイルの属性が正しくない場合“JMKG054-S 指定されたファイル名のファイル編成又はレコード形式が正しくありません。DD（FD）名=～”のメッセージが出力されるように修正した。</p>	JSMJG090

表16.1 プログラム修正事項（続き）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
9	<p>プログラム管理表出力のFD情報拡張において、複数のレコードを定義したDD名に対し、レコード名ごとに@の行が出力される。</p> <p>(対処) @の行は、DD名ごとに1行出力されるように修正した。</p>	JSMJG320 JSMJG790
1 0	<p>プログラム管理表出力およびプログラム情報出力において、データ部に 行内注記が存在すると、対象ファイルまたはレコードの情報がドキュメント に出力されない場合がある。</p> <p>(対処) データ部に 行内注記が存在しても、対象ファイルまたはレコードの情報がドキュメント に出力されるように修正した。</p>	JSMJG160 JSMJG180
1 1	<p>プログラム管理表出力およびプログラム情報出力において、可変長プログラムのデータ部に空白行が存在すると、FD情報が正常に出力されない場合がある。</p> <p>(対処) 可変長プログラムのデータ部に空白行が存在しても、ドキュメントのFD情報が正常に出力されるように修正した。</p>	JSMJG150 JSMJG190
1 2	<p>プログラム一覧出力およびプログラム管理表出力において、更新履歴のないプログラムに対して更新履歴が出力される場合がある。また、全機能において、更新日付による指定 (@DOPTまたは@COMPOUND) で、更新日付がないメンバが処理対象となる場合がある。</p> <p>(対処) 更新履歴のないプログラムに対して、更新履歴が出力されないようにし、更新日付による指定で、更新日付がないメンバが処理対象とならないように修正した。</p>	JSMJG200
1 3	<p>“JSMJG118-W I N C L U D E制御文に指定されているモジュールが使用（更新）中の為処理できません。メンバ名、コピー句名=～” のメッセージに該当のメンバ名とコピー句名が出力されない。</p> <p>(対処) JSMJG118-Wの可変部分に該当のメンバ名とコピー句名が出力されるように修正した。</p>	JSMJG190
1 4	<p>プログラム構造図出力の日本語変換出力指定において、中程度（Eレベル）エラーのメンバを含んだ複数メンバを処理対象とした場合、処理が終了しない。</p> <p>(対処) 中程度エラーのモジュールが含まれる場合でも、日本語変換出力指定ができるように修正した。</p>	JSMJG010 JSMJG300 JSMJG680



**FUJITSU**